

I. 平成28年度事業報告

1. 会勢報告

{総務担当：中西 美和、大橋 智樹}

【総 数】

(単位：人)

会 員	平成28年4月1日	平成29年3月31日	新 入 会 員	退 会 者	増 減
		1,493	1,447	75	121

会員資格

変更

正会員:	1,401	1,358	52	104	-52	9
準会員:	92	89	23	17	+6	-9

【内 訳】

(単位：人)

支 部	平成28年4月1日	平成29年3月31日	新 入 会 員	退 会 者	増 減 (): 支部間 の移動
北 海 道	33	29	1	5	-4(0)
東 北	55	54	1	5	-4(+2)
関 東	820	780	36	71	-35(-5)
東 海	126	131	14	8	+6(-1)
関 西	255	253	17	20	-3(+1)
中国・四国	115	112	4	7	-3(+1)
九州・沖縄	80	79	2	5	-3(+2)
国 外	9	9	0	0	0(0)
賛 助 会 員	28社29口	28社29口	1社1社	1社1口	0社0口

2. 事業報告

{総務担当：中西 美和、大橋 智樹}

平成28年度は、一般社団法人日本人間工学会第5期（平成28年6月～30年6月）の1年目として、会員向けサービスの充実を図るとともに、学会改革・戦略委員会を設置し、今後の学会のあるべき姿を検討した。さらに人間工学研究のための倫理指針検討委員会により、研究の多様化、社会動向の変化を踏まえ、平成21年に施行した「人間工学研究のための倫理指針」の改訂を検討した。

- (1) 平成28年定時社員総会を平成28年6月25日に三重県立看護大学において開催し、平成27年度事業報告・収支決算、平成28年度事業計画・収支予算等について審議し、決定した。
- (2) 第57回大会を斎藤真大会長のもと平成28年6月25日（土）～26日（日）に三重県立看護大学で、「人間工学と看護学」の主題のもとに開催し、大会企画シンポジウム「看工連携によるものづくりと三重県内の企業の技術について」を企画した。また、第58回大会は鳥居塚崇大会長のもと平成29年6月3日～4日に日本大学生産工学部津田沼校舎（千葉県習志野市）で開催することを決定した。なお、6月1日～4日の期間で開催されるACED2017（小谷賢太郎大会長）とジョイント開催。
- (3) 公開講座として2件、部会公開講座として2件開催した。
- (4) 機関誌「人間工学」の第52巻2～6号及び第53巻1号の計6冊を発行した。
- (5) 理事会を平成28年5月19日、6月24日、6月25日、10月14日、平成29年2月22日の計5回開催した。
- (6) 平成28年度研究奨励賞（1件）、グッドプラクティス最優秀賞（1件）・優秀賞（1件）の表彰を行った。
- (7) 人間工学専門家認定機構において、各種の専門家資格の試験を実施した結果、認定試験（A方式試験）合格者5名、筆記試験免除条項を適用した資格認定試験（B方式試験）合格者2名、準専門家合格者21名、アシスタント合格者3名を新たに得た。その結果、平成28年度末現在の認定人間工学専門家は204名、準専門家95名、アシスタント12名となった。このほか、定期総会、講演会、シンポジウム、セミナー等を開催し、会報を4回発行した。
- (8) 以下の常設委員会・担当及び臨時委員会・担当において各事業を積極的に進めた。

8-1) 広報委員会

理事会、支部、委員会、研究部会、専門家機構などと連携・協力のもと、ホームページ、ニュースレターを中心に広報活動を推進することによって人間工学の普及に努めた。

8-2) 編集委員会

学会誌の定期発行と内容の充実に努めた。編集委員会は対面、電子合わせて12回開催した。本年度は49編（原著43編、総説1編、短報3編、資料1編、技術報告1編）を受け付けた。採否が判定した投稿論文は29編（通常投稿19編、QR制度投稿論文10編）であり、通常投稿の採択率は52.6%、QR制度投稿論文は30.0%であった。

8-3) 国際協力委員会

ACED第2回大会にむけて、skype及び対面での実行委員会を開催した。IEA評議会@コロンビア（2016.10.30～31）に小谷委員長、鳥居塚副委員長、ならびに藤田IEA会長が出席した。その他、SEANES2016に鳥居塚副委員長が出席（2016.11.28～12.1）、インド人間工学会に小谷委員長が出席（2016.12.8～11）し、いずれもACED2017のPRを行った。

8-4) ISO/TC159国内対策委員会

FDIS、DIS等の規格原案に関する計42件の投票を行うとともに、国内委員会を開催し（全体会議3回、分科会28回）審議を行った。また、国際会議出席（17回、のべ47名出席）などによって3件の新ISO規格の発行に寄与した。

8-5) 表彰委員会

表彰選考等に関係する広報委員会、編集委員会、国際協力委員会、人間工学専門家認定機構等と連携し、公正かつ効率的な業務運営のもと、平成28年度各賞受賞者に対する授与式を行った。平成29年度各賞の選考を行うとともに、表彰の準備を進めた。また各表彰制度を整理した表彰制度規程を制定するとともに、各賞選考規程類の見直しを行った。

8-6) 安全人間工学委員会

社会への情報発信、他学会とのリエゾン、安全工学シンポジウム2016の幹事学会として開催の準備、運営を実施した。また、安全人間工学研究部会が主催・共催するシンポジウム・研究会の企画・立案・実施をサポートした。

8-7) 学術担当

日本学術会議、横断型基幹科学技術研究団体連合、及び文科省科学研究費助成事業等の活動を継続的にフォローした。

8-8) 企画担当

全国大会において学会本部主催企画講演「藤田 祐志 IEA 会長：人間工学の普及を担う国際人間工学連合」を開催した。また、研究部会等の研究成果を会員や社会に知らせるため、研究部会等との共催公開講座を2件(感性情報処理・官能部会との共催講座、人間工学専門家認定機構との共催講座)開催した。さらに、研究部会活動の活発化を図るため、研究部会規程の改訂案を検討・作成した。

8-9) 学会改革・戦略委員会

学会に対する社会ニーズと学術ニーズへ即応する基盤を整備するために、学会活動の活性化をはかるアクションプランの検討を行った。委員会会合、意識調査、及び入退会者の動向分析等を実施した。

8-10) 人間工学研究のための倫理指針検討委員会

倫理指針の改訂版の提案に向けて、基本的な考え方及びアクションの合意と会員及び認定人間工学専門家に対する調査を行った。

8-11) 子どものICT活用委員会

子どものICT機器活用に関する人間工学課題を検討するため、各種情報を交換するとともに、ガイドラインの考え方等を整理した。これらの活動成果を学会として共有するため第57回大会で「子どものICT活用の現状とガイドラインの検討」と題したシンポジウムを開催した。

8-12) IEA担当

IEA会長(藤田)のもと、常任役員会議(EC会議)および評議会会議(Council会議)の運営、会員の要望への対応、その他IEAの事業方針に沿った活動を実施した。また、IEAウェブサイトの運営業務にも従事した。

8-13) 第57回大会担当

第57回大会(斎藤真大会長・三重県立看護大学)を6月25日(土)~26日(日)に三重県立看護大学(三重県津市)にて開催し、大会テーマを「人間工学と看護学」と設定し、テーマに関連した特別講演や大会企画を中心に公開講座、一般企画シンポジウム、一般発表(170件)、機器展示、懇親会等を行い約485名の参加者を得て盛会であった。

(9) 支部、部会

北海道、東北、関東、東海、関西、中国・四国、九州・沖縄の計7支部と、医療安全研究部会、衣服人間工学部会、触覚インタラクション研究部会、航空人間工学部会、アーゴデザイン部会、感性情報処理・官能評価部会、看護人間工学部会、海事人間工学研究部会、ビッグデータ人間工学研究部会、安全人間工学研究部会、PIE研究部会、システム大会部会の計12研究部会が、多彩な活動を行った。

(10) 関連学術団体等と、67件の共催・協賛・記事掲載等を行った。

(11) 学会事務局では、JENC事務局業務、編集業務の担当など管理業務の見直しを行い一層の効率化と経費節減を図った。また、学会誌や大会講演集のJ-STAGEへの公開を進め、学会HPおよびJESニュースレターの配信により迅速な情報提供に努めた。

3. 委員会・担当活動

[常設委員会・担当]

3-1. 広報委員会

{委員長：松田 文子、副委員長：山田クリス孝介}

- (1) 理事会、支部、委員会、研究部会などと連携・協力のもと、ホームページを中心に広報活動を推進することによって人間工学の普及に努めた。重要ニュースのお知らせ、学会主催／協賛等のイベント案内等をホームページにて情報発信した。
- (2) 「人間工学の総合データベース (ERGO Directory)」およびグッドプラクティスデータベース (GPDB) の取り組みを継続し、人間工学の社会への普及に努めた。
- (3) HP のスペシャルコンテンツ「ピックアップがんばる人間工学家！」の企画・運営を引き続き行った。全国大会の特別講演映像を学会員専用サイトにて閲覧できるように整備を進めた。
- (4) 学会員へ JES ニュースレターの e-mail 配信を、引き続き学会事務局と連携し推進した。
- (5) 50 周年記念企画として継続検討してきた「人間工学博物館 (バーチャルミュージアム)」の実装に向け、今後の取り組みについて必要な事項の検討を行った。
- (6) グッドプラクティスデータベース (GPDB) の英訳掲載に向けて準備を行った。
- (7) Facebook のアカウントを作成し公開準備を進めた。

3-2. 編集委員会

{委員長：赤松 幹之、副委員長：榎原 毅}

- (1) 会誌「人間工学」の編集・発行
 - 1) 平成28年04月：第52巻2号 (pp. 71-102) : 原著3編 他
 - 2) 平成28年06月：第52巻3号 (pp. 103-164) : 総説1編, 原著2編, 短報1編, 資料1編 他
 - 3) 平成28年08月：第52巻4号 (pp. 165-196) : 原著1編, 資料1編 他
 - 4) 平成28年10月：第52巻5号 (pp. 197-236) : 原著3編 他
 - 5) 平成28年12月：第52巻6号 (pp. 237-276) : 原著2編 他
 - 6) 平成29年02月：第53巻1号 (pp. 1-24) : 原著2編 他
- (2) 学会誌のあり方を議論する企画セッションの実施
「人間工学領域発展のための場」としての学会誌のあり方についての方針を定めるため、関東支部大会において編集委員会主催の企画セッションを行い、学会員と議論をした。
- (3) クイック・レビュー(QR)制度
論文投稿の推進と投稿者の利便性を高めるため、大会と連動したクイック・レビュー制度を実践し、一定の成果を得た。QR制度の仮登録者は42名、本登録者は26名、論文投稿者は12名(採択3件、不採択7件、査読中2件)であった。
- (4) 編集委員会
対面委員会とメーリングリストによる電子編集委員会を隔月ごとに計12回開催した。対面委員会のうち2回は全体会議(6月三重、8月東京)、4回は複数拠点を結んだweb会議(5月東京・大阪、10月東京・大阪、12月高崎、2月東京・大阪)とした。いずれも、個人単位のweb参加も可能とし、委員の利便性向上と委員会の活性化に寄与した。
- (5) 投稿論文数・採択率・査読期間
前年度に引き続き、採録率や査読期間に関する情報をホームページに掲載した。
平成28年度に受け付けた投稿論文は、通常投稿が37編(原著31編, 総説1編, 短報3編, 資料1編, 技術報告1編)、QR制度投稿論文が12編(原著12編)であり、総数は49編(原著43編, 総説1編, 短報3編, 資料1編, 技術報告1編)であった。平成28年度に採否が判定した投稿論文は通常投稿が19編(採択10編, 不採択9編, 採択率52.6%)、QR

制度投稿論文が10編（採択3編，不採択7編，採択率30.0%）であり，全体では29編（採択13編，不採択16編，採択率44.8%）であった．平成28年度中に決定した査読者の延べ人数は85名（うち非会員者9名）であった．また，平成28年度に判定が確定した論文の平均査読期間（全投稿区分の投稿受付日から最終判定日までの日数）は，通常投稿が109.8日（採択148.7日，不採択66.7日），QR制度投稿論文が58.2日であり，全体では92.0日であった．

(6) その他，編集委員会所掌業務に対応した．

3-3. 国際協力委員会

{委員長：小谷 賢太郎、副委員長：鳥居塚 崇}

(1) 委員会開催

MLによる委員会の開催、そのほか関連事項について緊密な連絡を実施

(2) 理事会審議・報告

ACED2017準備状況とACED2017実行委員会との連絡、IEA関連の国際表彰について、IEAフェロー申請と推薦候補の検討についての審議など

(3) 国際交流

・ACED第2回大会(2017年予定)準備活動に関して、skypeによる実行委員会の開催

・IEA評議会：コロンビア：2016. 10. 30～31

小谷委員長，鳥居塚副委員長，ならびに藤田IEA会長が出席し，ECメンバー報告、International Development Committee報告、Professional Standards and Education, Science, Technology and Practice Committeeなどからの報告、IEA法人登録の移転について、Historian report, IEA2018大会（イタリア，フィレンツェ）の準備，Liberty Mutual Medalの受賞者など，新しい参加国の報告などが行われた．

・国際表彰対応（提出資料の準備，表彰委員会との連携，IEA Award Committeeとの事務対応）

・AAEC（オランダ，米国）開催に向けてJESとのアグリーメント作成（2016. 11. 9）

・熊本地震被害見舞い連絡に対して各国への礼状の送信

・ブラジルABERGOとの協力活動，JES活動の紹介のための出席準備対応（2017. 2～）

・IEAニューズレターのJESウェブサイトへの公開（随時）

・SEANES2016に出席、ACED/JES58回大会の紹介（鳥居塚副委員長、2016. 11. 28～12. 1）

・インド人間工学会（HWWE2016）に出席、ACED/JES58回大会の紹介（小谷委員長、2016. 12. 8～11）

(4) 国際活動関連記事

・第52巻6号 2016年度IEA評議会報告（小谷賢太郎，鳥居塚崇）

3-4. ISO/TC159国内対策委員会

{委員長：横井 孝志、副委員長：佐藤 洋}

(1) 委員会開催、国際会議出席状況

・国内委員会：全体会議3回、分科会28回（メール審議含む）

・国際会議出席状況：17回の国際会議に延べ47名出席（ネット会議を含む）

(2) 発行規格、投票

〈新ISO規格〉：6件

・ISO 27500:2016 The human-centred organization — Rationale and general principles

・ISO 6385:2016 Ergonomics principles in the design of work systems

・ISO 9241-161:2016 Ergonomics of human-system interaction — Part 161: Guidance on visual user-interface elements

・ISO 9241-391:2016 Ergonomics of human-system interaction — Part 391: Requirements, analysis and compliance test methods for the reduction of photosensitive seizures

- ・ ISO/TS 21144:2016 Ergonomics of human-system interaction — Electronic paper display — Indoor use
- ・ ISO 24505:2016 Ergonomics — Accessible design — Method for creating colour combinations taking account of age-related changes in human colour vision

〈投票〉：CIB:8件、NP:5件、CD:4件、DIS:6件、FDIS:3件、SR:16件

(3) 分科会活動（メール審議含む）

- | | | |
|--------------------------------|----------|------------|
| ・ SC1(人間工学の一般原則)&WG | 主査: 青木和夫 | 分科会 4 回開催 |
| ・ SC3(人体寸法と生体力学) &WG | 主査: 榎原毅 | 分科会 4 回開催 |
| ・ SC4(人間とシステムのインタラクション) &WG&SG | 主査: 福住伸一 | 分科会 10 回開催 |
| ・ SC5(物理的環境の人間工学) &WG&SG | 主査: 澤田晋一 | 分科会 5 回開催 |
| ・ アクセシブルデザイン関連会議 | 主査: 青木和夫 | 分科会 5 回開催 |

3-5. 表彰委員会

{委員長：青木 和夫、副委員長：申 紅仙}

- (1) 表彰選考等に係る広報委員会、編集委員会、国際協力委員会、人間工学専門家認定機構等と連携し、公正かつ効率的な業務運営を行った。
- (2) 平成 28 年定時社員総会において各賞受賞者に対する授与式を行った。
- (3) 各規程を見直し、優秀研究発表奨励賞選考規程の改訂を行った。
- (4) 平成 29 年度の各賞受賞候補を選考するとともに、表彰の準備を行った。
- (5) 表彰委員会のウェブサイトを用い、各賞の選考規程及び歴代の各賞受賞者を広く公開した。
- (6) その他、表彰委員会所掌業務への迅速な対応に努めた。

3-6. 安全人間工学委員会

{委員長：首藤由紀、副委員長：鳥居塚崇}

- (1) 第 5 期に入り、安全人間工学研究部会との連携をより深めるために新たに研究部会幹事を委員に加え、青木（日大）・小松原（早大）・酒井（労働科学研究所）・佐相（電力中央研究所）・首藤（社会安全研究所）・鳥居塚（日本大学）・中西（慶應義塾大）・芳賀（立教大）・山出（社会安全研究所）・吉村（海上技術安全研究所）の 10 人の委員で活動した。
- (2) 日本原子力学会社会・環境部会ほかとともに第 17 回「安全・安心のための管理技術と社会環境ワークショップ—信頼を得るための方法—」を主催した。（平成 28 年 12 月 23 日（祝）筑波大学東京キャンパス文京校舎）
- (3) 日本学術会議安全工学シンポジウム 2016 の幹事学会として、佐相委員と鳥居塚委員（安全人間工学研究部会長）を中心として、シンポジウム全体の運営を実施するとともに、連携パネルディスカッションを企画・運営した。
- (4) 安全工学会外部有識者アドバイザーボードに芳賀委員が出席している。
- (5) 安全人間工学研究部会による 2 回の研究会の企画に助言等を行った。

3-7. 学術担当

{担当：横山 清子、吉村 健志}

学術担当として、日本学術会議、横断型基幹科学技術研究団体連合（横幹連合）、及び文科省科学研究費助成事業等の活動を継続的にフォローした。

- (1) 第 6 回横幹連合カンファレンス名古屋へのプログラム委員としての参加（横山理事）
- (2) 横幹連合への理事の推薦（推薦者なし）

3-8. 企画担当

{担当：岡田 明、阿久津正大}

- (1) 全国大会において、学会本部主催企画講演「藤田 祐志 IEA 会長：人間工学の普及を担う国際人間工学連合」を行った。
- (2) 研究部会等の研究成果を会員や社会へ広く知らせるため、研究部会等との共催公開講座を企画し、以下を実施した。
 - 1) 感性情報処理・官能部会との共催講座
開催日：2016年8月3日、場所：文化学園大学、テーマ：美人の特徴－人間工学に基づくお化粧法
 - 2) 人間工学専門家認定機構との共催講座
開催日：2016年12月3日、場所：高崎経済大学、テーマ：就活や仕事に役立つ人間工学準専門家の概要、取得方法とメリット
- (3) 研究部会活動の活発化を図るため、学会改革・戦略委員会と連携して、研究部会規程の改訂案を作成した。

3-9. 人間工学専門家認定機構

{機構長：福住 伸一、副機構長：横井 元治}

- (1) 会員状況 (2017年3月31日現在)
人間工学専門家 204名 (H28年度 資格取得者7名、退会者2名)
人間工学準専門家 95名 (H28年度 資格取得者9名、退会者11名[内2名は専門家へ登録])
人間工学アシスタント 12名 (H28年度 資格取得者4名、退会者8名)
- (2) 資格認定試験及び審査実施状況
資格認定試験 (A方式試験) を1回実施、受験6名、合格5名であった。また、筆記試験免除条項の適用 (B方式試験) を1回実施、受験2名、合格2名。準専門家に応募21名、書類審査に21名が合格。アシスタントに応募3名、書類審査に3名が合格。
- (3) 定期総会・講演会の開催
講演会 日時：2016年4月22日(金) 15:00~17:30
講演1：佐相 邦英 (一般財団法人電力中央研究所)
「電中研でのヒューマンファクター研究について」
講演2：赤津 裕子 (沖電気工業株式会社)
「公共機器・オフィス機器におけるUXインタフェース研究」
総会 日時：2016年4月22日(金) 17:45~18:45 (総会后、交流会を開催)
出席者：30名、委任状：91名 (交流会参加：15名)
- (4) 幹事会の開催
第36回 日時：2016年9月4日(日) 16:00~18:00 場所：芝浦工業大学 芝浦キャンパス
第37回 日時：2017年3月1日(水) 16:00~18:00 場所：首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス
- (5) 再認定の実施
人間工学専門家9名、人間工学準専門家13名の再認定手続きが完了した。
- (6) 国際会議
SEANES (South East Asian Network of Ergonomics Societies) にてCPE関連の討議を行った。
ULAERGO (Union Latinoamericana de Ergonomia) 2016で、中南米及び日本の人間工学専門家資格制度の取り組み、についてのシンポジウムに参加した。
- (7) シンポジウム、機構紹介の実施
 - ・ 日本人間工学会第57回大会 (2016/6/26、津市) シンポジウム「人間工学専門家の活動、役割、期待」
 - ・ 九州・沖縄支部大会 (2016/10/16、唐津市) 特別講演「人間工学専門家認定機構の活動」
 - ・ 北海道支部大会 (2016/11/26、小樽市) 認定機構紹介、HCD-Net との共同シンポジウム

- ・関東支部大会（2016/12/3、高崎市）シンポジウム「就活や仕事に役立つ人間工学準専門家の概要、取得方法とメリット」
- ・関西支部大会（2016/12/10、紀の川市）「人間工学専門家認定機構の活動内容紹介 認定人間工学専門家資格制度について」

(8)CPE サロン（交流会）の開催

日時：2017年3月14日（火） 15：00～17：45 会場：芝浦工業大学芝浦キャンパス

(9)会報作成

会報を4回(第47～50号)発行した。第50号は日英2か国語で発行。

(10)人間工学グッドプラクティス（GP）賞

表彰委員会と協力し、認定人間工学専門家による一次審査を実施し、6月の大会にて第5回の表彰を行った。

(11)試験ワーキンググループ（WG）活動

試験ガイドブック改訂を行った。試験の在り方について検討を行った。

[臨時委員会・担当]

3-10. 学会改革・戦略委員会

{委員長：榎原 毅, 副委員長：吉武 良治}

- (1)学会設立後50年が経過し、既存の学会運営モデルでは時代のニーズに即応することが困難となりつつある。多様化する社会ニーズと学術ニーズへ即応する基盤を整備するために、学会活動の活性化をはかるアクションプランの検討を行った。
- (2)委員会全体会合を2回（2016. 10. 5および2017. 1. 18）、博多会合（2016. 12. 27）を1回開催した。その他E-mailによる意見交換を行った。
- (3)「日本人間工学会に対する意識調査」を日本人間工学会会員（学生会員を含む）および認定人間工学専門家（準・アシスタントを含む）に対して実施し、154名から回答を得た。
- (4)学会事務局の協力を得て、過去5年間の入会・退会者の動向分析を行った。

3-11. 人間工学研究のための倫理指針検討委員会 {委員長：石橋 基範、副委員長：大須賀 美恵子}

- (1)委員編成を行い、大学4名、公的研究機関2名、企業3名の9名の委員で発足した。
- (2)倫理指針の改訂版 ver. 1 を2017年8月頃、ver. 2 を2017年12月頃、ver. 3 を2018年4月頃に理事会へ提案することを目標とした活動計画を設定した。
- (3)第1回委員会を2016年10月5日に開催し、以下の基本的な考え方およびアクションについて合意した。
 - 1)人間工学は学際的な研究領域であることを意識し、倫理指針は様々な学術分野の研究者・技術者にとって最低限の順守が必要なMinimum Requirement とする。
 - 2)学会誌投稿のための倫理指針ではなく、人間工学研究を実施する際の指針を目指す。
 - 3)日本人間工学会としての課題を検討し、指針改訂のポイントや追加すべき内容を明らかにするために、「人を対象とする研究倫理に関する意識調査」を実施する。
- (4)「人を対象とする研究倫理に関する意識調査」を日本人間工学会会員（学生会員を含む）および認定人間工学専門家（準・アシスタントを含む）に対して実施し、4月10日現在で130名から回答を得た。

3-12. 子どもの ICT 活用委員会

{委員長:齊藤 進、副委員長:久武 雄三}

わが国では、国の戦略に沿った教育の情報化推進事業等により、小中学校における ICT 機器の導入と活用が急速に進められている。しかし、小中学校では、子どもの ICT 機器活用についての人間工学的視点はないままに、児童や生徒一人一台の情報端末や教室への電子黒板と実物投影機等の ICT 機器が導入されている現状である。

日本人間工学会 (JES) では、子どもの ICT 機器活用に関する人間工学課題を検討するため、子どもの ICT 活用委員会を設置し、各種情報を交換するとともに、ガイドラインの考え方等を整理してきた。これらの活動成果を学会として共有するために、2016 年 6 月に開催された JES 第 57 回大会では、本委員会として「子どもの ICT 活用の現状とガイドラインの検討」と題する下記シンポジウムを開催した。

- ・青木和夫「子どものICT活用の現状とガイドラインの検討」
- ・齊藤進「人間工学ガイドラインの考え方」
- ・岡田衛「ノートパソコン・タブレットパソコン開発のための小中学校ICT教育現場を対象とした観察事例」
- ・久武雄三「ICT端末のための電子ディスプレイの要件と実現のための取り組み」
- ・宮本雅之「大型タッチパネル技術の進展」
- ・柴田隆史「子どもの ICT 活用人間工学ガイドラインの概要」

また、JES 内に限らず、国内外における他の研究集会等においても、本委員会委員は自身の研究成果を様々な機会を利用して発表することにより、JES の本委員会活動を周知させることに貢献した。例えば、柴田隆史委員や久武雄三委員を中心として、日本教育工学会研究会 (JSET 16-4)、第 23 回ディスプレイ国際ワークショップ (IDW/AD '16)、第 13 回電子ペーパーシンポジウム、電子情報技術産業協会 (JEITA) 電子ディスプレイの人間工学シンポジウム 2017、20th Applied Ergonomics Conference (AEC 2017) 等々で本委員会活動を紹介した。

3-13. IEA 担当

{担当:藤田 祐志、河合 隆史}

- (1) IEA 会長 (藤田) として、常任役員会議 (EC 会議) および評議会会議 (Council 会議) の運営、会員の要望への対応、IEA の事業方針にそった活動ほかをおこなった。
- (2) IEA ウェブサイトの運営業務に従事した (主に河合隆史が担当)。

2-14. 第 57 回大会担当

{担当:齋藤 真}

日本人間工学会第57回大会を2016年6月25日(土)~26日(日)、三重県立看護大学(三重県津市)において開催した。参加者数は、485名、展示企業関係13社32名であった。メインテーマは「人間工学と看護学」とした。大会企画シンポジウムは「看工連携によるものづくりと三重県内の企業の技術について」として看護ケアを支援するための「ものづくり」と「知的財産」について議論する場を設けた。また東海支部特別企画として6月24日(金)に「初学者のための人間工学測定技法」を開催した。

- (1) 特別講演「看護のものづくりと人間工学」

川口孝泰 筑波大学教授

- (2) シンポジウム

- 1) 大会企画シンポジウム

「看工連携によるものづくりと三重県内の企業の技術について」

- 2) シンポジウム (カッコ内は担当者、敬称略)

- ・社会の中の人間工学—Future of ErgonomicsとISO27500— (鳥居塚崇)
- ・生理指標で何がわかるか—その有効な使い方 (PIE研究部会、大須賀美恵子、三宅晋司)
- ・デザイン人間工学とイノベーション創出 (山岡俊樹)

- ・子どものICT活用の現状とガイドラインの検討（子どものICT活用委員会，齊藤進）
 - ・Safety I & Safety II（安全人間工学研究部会）（鳥居塚崇）
 - ・アーゴデザインとビッグデータ（アーゴデザイン部会，ビッグデータ人間工学研究部会，新家敦）
 - ・人間工学専門家の活動，役割，期待：ボーダーを超えた視点から（福住伸一）
 - ・伝統みらい学の創成（濱田泰以）
 - ・三重における海事分野の人の匠（海事人間工学研究部会，村井康二）
 - ・人間工学博物館（バーチャルミュージアム）の展開（広報委員会，山田クリス孝介）
 - ・地域医療における医療提供と人間工学（定本清美）
 - ・HCIにおける国際規格活動と参加のメリット（横井孝志）
- (3) 東海支部主催大会チュートリアル企画（3講座開催，参加者55名）
- ・人間工学研究で用いる統計解析tips：投稿論文でよく誤用されること（榎原毅）
 - ・温熱的指標とその測定：体温と熱放散の指標（大西範和，山根基）
 - ・心理量のはかり方：心理尺度のキホンのキ（神田幸治）
- (4) 発表演題数等
- ・一般演題170題
 - ・大会企画シンポジウム1件
 - ・学会理事会主催企画講演1件
 - ・一般企画シンポジウム12件
 - ・講習1件
- (5) 感謝状贈呈
- 元IEA会長 故杉山貞夫教授のご遺族から本学会へご寄付があり，総会において青木理事長からご遺族へ感謝状を贈呈した。
- (6) 研究奨励賞，グッドプラクティス賞
- 研究奨励賞は，「子どものGUI操作におけるメニュー階層の構造理解に関する研究」（阪野史子，岡田明，人間工学会誌第51巻5号）．人間工学グッドプラクティス賞の最優秀賞は（公財）鉄道総合技術研究所 人間工学研究室の「ホーム縁端警告ブロック」，優秀賞は（株）Remyの「remy pan +(レミパンプラス)」．
- (7) 懇親会
- 大会1日目に三重県立看護大学学生食堂” Cafeteria Dream Hill”にて開催，150名の参加者があった。

4. 支部活動

4-1. 北海道支部

{支部長：横山 真太郎、副支部長：平沢 尚毅}

(1) 支部役員会

1) 定例役員会

日時：平成28年8月4日（木）18：00～19：00

場所：札幌駅前ビジネススペース

議題 H27年度支部事業報告、H27年度決算報告並びに監査報告

H28年度支部予算案、H28年度支部事業計画案

H28年度北海道支部総会について

H28年度北海道支部大会について

2) 臨時役員会

日時：平成29年3月30日 16：00～17：00

場所：小樽商科大学札幌サテライト中講義室

議題 北海道支部長の後任について

H28年度予算の執行状況について

(2) 平成28年度北海道支部総会並びに大会

大会長：平沢 尚毅（小樽商科大学）

日時：平成28年11月26日（土）13:00～

場所：小樽商科大学106教室

1) 支部総会議題

議題 H27年度支部事業報告、H27年度決算報告並びに監査報告

H28年度支部予算案、H28年度支部事業計画案

H28年度北海道支部総会について

H29年度北海道支部大会について

2) 支部大会

13:30～13:35 開会の辞 大会長：平沢尚毅（小樽商科大学）

13:35～15:15 一般演題 座長：小林大二（千歳科学技術大学）

- ・ ボタン型スイッチの手触りと方向イメージとの関係

鈴木康弘、小林大二（千歳科学技術大学）

- ・ カプセルホテル施設におけるカスタマージャーニーマップによる業務改善

相沢直人1)、小田一弥、藤原和昭2) (1) 株式会社インサイト、2) 株式会社ニコー)

- ・ ユーザーインタビューによるアフォーダンス視点からの盲導犬の機能特性

塚田愛可、酒井正幸（札幌市立大学）

- ・ 外国人観光客の行動の一考察

卓田郁也、山田敏弥 平沢尚毅（小樽商科大学）

- ・ CIF(Common Industry Format)を活用する

平沢尚毅（小樽商科大学）

15:15～15:30 休憩

15:30～16:55 シンポジウム 『人間工学の資格を活かす』

司会平沢尚毅（小樽商科大学）

パネリスト 福住伸一（日本電気(株)）、伊藤 潤（UX測研）

- ・ 認定人間工学専門家資格制度の概要

福住伸一（人間工学専門家認定機構／日本電気(株)）

- ・ 人間中心設計(HCD) 専門家の特徴と人間工学専門家への期待

伊藤潤（特定非営利活動法人 人間中心設計推進機構／UX測研）

- ・ パネルディスカッション

16:55～17:00 閉会の辞 会長：平沢尚毅（小樽商科大学）

18:00～ 懇親会 寿司居酒屋『魚真』

4-2. 東北支部

{支部長：大橋 智樹}

(1) 支部役員会

本年度は支部研究会に合わせて支部役員会を3回開催するとともにメール会議を実施して、意見集約を行い支部行事の運営を進めた。

- ・ 支部役員会28-1

1) 日時：平成28年12月11日（日）13:10～13:50

2) 場所：山形県郷土館文翔館

3) 議事：平成28年度第2回、第3回研究会について、全国大会開催について

・支部役員会28-2

- 1) 日時：平成29年2月25日（土）13:10～13:50
- 2) 場所：東北大学工学研究科総合研究棟101号室
- 3) 議事：平成28年度第3回研究会について、全国大会開催について

・支部役員会28-3

- 1) 日時：平成29年3月18日（土）14:30～16:00
- 2) 場所：ヒューモス仙台駅前会議室
- 3) 議事：全国大会開催の受け入れについて

(2) 定時支部総会

支部役員討議と了承を得て、メール審議にて実施。

- 1) 日時：平成28年5月23日メール発信～5月27日返信〆切にて実施。
- 2) 場所：山形大学人文学部人間文化学科本多薫研究室にて返信内容確認。
- 3) 議事：平成27年度事業報告、平成27年度決算報告案、平成28年度事業計画案、平成28年度事業予算案について支部役員会提案内容を了承。

(3) 支部研究会等

・支部研究会28-1

- 1) 日時：平成28年12月11日（日）14:00～17:00
- 2) 場所：山形県郷土館文翔館
- 3) 研究会テーマ：「医療における人間工学」

講演1：臨床工学の現状

講師：工藤 剛実 先生（東北文化学園大学 科学技術学部 臨床工学科 准教授）

講演2：発達障害の作業療法

講師：本多 ふく代 先生（東北文化学園大学 医療福祉学部 リハビリテーション学科 教授）

参加者：10名

・支部研究会28-2

- 1) 日時：平成29年2月18日（土）14:30～17:00
- 2) 場所：東北大学工学研究科総合研究棟101号室
- 3) 研究会テーマ：「“吉田調書”から学ぶ」

講演1：“吉田調書”からのノンテクスキル抽出と分類

金山正樹氏（株）原子力安全システム研究所・社会システム研究所副所長

講演2：“吉田調書”の分析に基づく緊急時対応ノンテクニカルスキル訓練の開発と実践

彦野 賢氏（株）原子力安全システム研究所ヒューマンファクター研究センター副主任研究員

参加者：30名

・支部研究会28-3

- 1) 日時：平成29年3月18日（土）10:00～18:00
- 2) 場所：ヒューモス仙台駅前会議室
- 3) 研究会テーマ：「仙台駅周辺のサイン評価ワークショップ」

学生を数人のグループに分け、外国人観光客の目線で仙台駅周辺の案内標識等のユーザビリティを検証することとした。仙台駅に新幹線で降り立った外国人が目的地に到達するために、どこにどんな障壁があるのかを、現地を当該の外国人の視点で歩いて検証し、問題点の指摘と改善提案をまとめた。それらに基づいてディスカッションを行った。

参加者：東北大学大学院生3名、東北学院大学学部生2名、宮城学院女子大学学部生3名。その他6名。

4-3. 関東支部

{支部長：三林 洋介}

(1) 第46回関東支部大会・第22回卒業研究発表会

- ・開催日:平成28年12月3日(土)～4日(日)
- ・会場:高崎経済大学
- ・大会長:久宗周二先生

① 部大会

- ・大会シンポジウム「参加型改善活動の広がり」

基調講演:小木和孝氏(公益財団法人大原記念労働科学研究所)「参加型改善の広がりを支える小集団対話技法の共通利点」、他3題

- ・企画セッション 2セッション6題

「良い学会誌、良い論文、良い研究」(人間工学会誌編集委員会)

「就活や仕事に役立つ人間工学準専門家の概要、取得方法とメリット」(人間工学専門家認定機構)

- ・一般講演 10セッション40題、計50題

② 業研究発表会 12セッション48題

- ・機器展示、懇親会
- ・参加者:187名(正会員62名、非会員12名、学生113名)

(2) 支部委員会

- ・開催日:平成28年6月30日(木) 会場:首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス
平成28年12月3日(土) 会場:高崎経済大学
- ・議事:平成27年度事業報告案および決算案、平成28年度事業計画案および予算案、平成29年度(第47回)支部大会・第23回卒業研究発表会、他

(3) 支部総会

- ・開催日:平成28年12月3日(土) 会場:高崎経済大学
- ・議事:平成27年度事業報告案および決算案、平成28年度事業計画案および予算案、平成29年度(第47回)支部大会・第23回卒業研究発表会(平成29年12月16日(土)～17日(日)、会場:日本大学理工学部、大会長:松田礼先生)、他

(4) 講演会・見学会

- ・開催日:平成29年3月7日(火)
- 開催地:独立行政法人自動車技術総合機構 交通安全環境研究所(東京都調布市)
- 講演:「交通弱者保護のための新たな取り組み」、講師:松井靖浩氏(交通安全環境研究所自動車研究部)
- 見学施設:大型ディーゼルエンジンシャシダイナモメータ、車両衝突安全実験施設、
鉄道安全性評価シミュレータ、他、
- ・参加者:30名

(5) ニュースレターの発行:見学会の案内(2月)

4-4. 東海支部

{支部長：斎藤 真 }

(1) 日本人間工学会東海支部総会開催

- ・開催日時:平成28年5月28日(土) 15:00-15:30
- ・場所:名古屋市立大学北千種キャンパス(名古屋市千種区)

(2) 講演会の開催

- ・開催日時:平成28年5月28日(土) 15:45-16:45
- ・場所:名古屋市立大学北千種キャンパス(名古屋市中村区)

- ・演題：「アパレルの着やすさと美しさを求めて」
 - ・演者：富田明美（相山女学園大学名誉教授）
- (3) 支部役員会
- ・第1回支部役員会 平成28年5月28日(土) 名古屋市立大学北千種キャンパス
 - ・第2回支部役員会 平成28年10月1日(土) 名古屋市立大学北千種キャンパス
 - ・第3回支部役員会 平成28年11月26日(土) 名古屋ガーデンパレス
- (4) 日本人間工学会東海支部2015年研究大会の開催
- ・開催日：平成28年10月15日(土)
 - ・開催場所：名古屋市立大学芸術工学部（名古屋市千種区）
 - ・大会長：横山清子（名古屋市立大学大学院 教授）
 - ・特別講演：特別講演「光の新たな時代の到来：ナノテクノロジーと光で切り開く道」
松本貴裕（名古屋市立大学大学院芸術工学研究科教授）
 - ・若手人材支援企画：「シリーズ：実務者・初学者のための人間工学測定技法講座」
 - ・一般講演23題、参加者65名
- (5) 東海支部主催「実務者・初学者のための人間工学測定技法講座」
- ・第4回 「人間工学研究と研究倫理：新統合指針のポイントと人間工学研究への対応」
平成28年5月11日(水)
榎原 毅（名古屋市立大学大学院 講師）
参加者：(10名)
 - ・第5回 「心理量のはかり方：心理尺度のキホンのキ」
平成28年6月24日(金)
神田幸治（名古屋工業大学大学院工学研究科 准教授）
参加者：(17名)
 - ・第6回 「温熱的指標とその測定：体温と熱放散の指標」
平成28年6月24日(金)
大西範和（三重県立看護大学 教授）
山根 基（愛知みずほ大学 講師）
参加者：(13名)
 - ・第7回 「人間工学研究で用いる統計解析 tips：投稿論文でよく誤用されること」
平成28年6月24日(金)
榎原 毅（名古屋市立大学大学院 講師）
参加者：(25名)
 - ・第8回：「体験から学ぶ測定技術の初歩—生体信号、動作、視線、立体形状を対象として」
平成28年10月15日(土)
横山清子（名古屋市立大学大学院 教授）
松河剛司（愛知工業大学情報科学部 准教授）
参加者：(13名)
 - ・第9回 「心理量のはかり方：心理尺度のキホンのキ」
平成28年12月22日(木)
神田幸治（名古屋工業大学大学院工学研究科 准教授）
参加者：(5名)
 - ・第10回 「人間工学研究で用いる統計解析 tips：統計検定の基礎を学び直そう」
平成29年1月13日(金)
榎原 毅（名古屋市立大学大学院 講師）
参加者：(16名)

- ・第11回「人間工学研究で用いる生体指標測定：眼球運動測定」
平成29年3月10日(金)
斎藤 真 (三重県立看護大学 教授)
参加者：(9名)

4-5. 関西支部

{支部長:白井 伸之介}

(1)企画・行事等

1)見学会

開催日：平成28年 12月5日 (金)
場 所：西日本旅客鉄道株式会社 社員研修センター (大阪府吹田市)
時 間：15：00-17：45
参加者：20名
見学内容：新幹線シミュレータ、安全体感棟など
※詳細は見学会報告として人間工学誌に掲載予定

2)支部大会

開催日：平成28年 12月10日 (土)
主 催：日本人間工学会関西支部
場 所：近畿大学和歌山キャンパス (和歌山県紀の川市)
大会長：廣川 敬康先生 (近畿大学)
参加者：77名
行事内容：
・特別講演「レーザーを用いたアパタイト膜形成による新規歯科治療～ 極薄アパタイトシート貼付法と口腔内Er：YAGレーザーアブレーション法～」
本津 茂樹 先生 (近畿大学 生物理工学部)
・オーガナイズドセッション 1セッション5題
テーマ「エルゴデザイン」
・一般講演 8セッション33題、計38題
・活動紹介「認定人間工学専門家資格制度について」
横井 元治 先生 (認定人間工学専門家機構 (CPE))
・懇親会
※詳細は大会報告として人間工学誌に掲載予定

3)春季講演会

開催日：平成29年 3月25日 (土)
時 間：14:00～16:00
場 所：大阪工業大学 OIT 梅田タワー (大阪市北区)
講演1：「ポジティブ健康心理学～幸せのレシピは健康にも好影響をもたらす～」
講 師：山田 富美雄 先生 (関西福祉科学大学 心理科学部)
講演2：「年を取ることは、ポジティブなことなのか」
講 師：権藤 恭之 先生 (大阪大学 大学院人間科学研究科)
参加者：42名

4)協賛

日本認知心理学会 安全心理学部会 第37回研究会
主 催：日本認知心理学会 安全心理学部会

演 者：北折 充隆 先生（金城学院大学 人間科学部）
演 題：「歩行者の信号無視行動を規定する要因について」
日 時：平成28年 11月 5日（土）
場 所：大阪大学大学院 人間科学研究科（大阪府吹田市）
参加者：23名

(2) 会議・総会等

1) 第1回企画幹事会

開催日：平成28年 7月15日（金）
会 場：大阪大学 大学院人間科学研究科

2) 第1回評議員会役員会合同会議

開催日：平成28年 12月 10日（土）
会 場：近畿大学和歌山キャンパス

3) 平成29年度～平成30年度 評議員選挙

投票期間：平成29年 1月7日（土）～ 1月20日（金）

4) 選挙管理委員会（選挙結果開票）

開催日：平成29年 2月3日（金）
会 場：大阪大学 大学院人間科学研究科

5) 第2回企画幹事会

開催日：平成29年 2月 10日（金）
会 場：大阪大学 大学院人間科学研究科

6) 第2回評議員会（メール審議）

開催日：平成29年 2月 11日（土）
議 題：優秀発表賞の選考

7) 会計監査

開催日：平成29年 3月15日（水）
会 場：大阪大学 大学院人間科学研究科

8) 第2回評議員会役員会合同会議

開催日：平成29年 3月25日（土）
会 場：大阪工業大学 OIT 梅田タワー

9) 支部総会

開催日：平成29年 3月25日（土）
会 場：大阪工業大学 OIT 梅田タワー
出席者：29名（+委任状 27名）

10) 優秀発表賞授賞式（支部総会時）（当年度支部大会発表の学生・若手研究者が対象）

〔発表者〕 田辺 伸吾（神戸大学）
「簡易操船シミュレーターを用いた訓練生の他船状況認識の変化について」
〔発表者〕 西尾 大（摂南大学）
「ARによる仮想高齢者を用いた設置済み背上げベッドの評価システム」
〔発表者〕 村田 愛（京都女子大学）
「ストーリーを用いた要求事項の抽出」

4-6. 中国・四国支部

{支部長：村田 厚生}

(1) 支部理事会開催

第1回2016年12月10日(土) 香川大学工学部管理棟1階会議室
第2回2017年3月27日(月) 岡山大学工学部5号館3階305室

(2) 支部総会開催

2016年12月10日(土) 香川大学工学部3号館3階3301室

(3) 第49回日本人間工学会中国・四国支部大会

2016年12月10日(土) 香川大学工学部林町キャンパス

大会長: 鈴木桂輔先生(参加者: 67名)

一般講演36件

(4) 支部講演会開催

開催日: 2016年12月10日(日), 場所: 香川大学工学部3号館3階3301室

題目: 「超高齢者化における高齢者の安全な生活移動を持続させる支援方策とモビリティ」

講師: 小竹元基氏

(東京大学大学院新領域創成科学研究科准教授)

(5) 支部協賛イベント

開催日: 2016年7月27日(水) ~ 2016年7月31日(日)

場所: Walt Disney World® Swan and Dolphin Hotel, near Orlando, Florida, USA

大会主催者: Prof. Waldemar Karwowski, University of Central Florida

(6) 平成28年度支部表彰の実施

支部表彰選考委員(鈴木桂輔副支部長(香川大学), 吳景龍支部理事(岡山大学大学院), 田口豊郁支部理事(川崎医療福祉大学))による絶対評価を実施した結果, 以下の論文3本が優秀論文として表彰された。

講演番号: 206

行動指標を用いた主観的な眠気評価の予測のためのステップワイズ法による多項ロジスティック回帰モデル
中家潤二(岡山大学大学院) 他2名

講演番号: 401

口腔内電位変化を利用した舌インタフェースのコンセプト

中谷真太郎(鳥取大学) 他1名

講演番号: 405

画像の鮮明化による眼球硝子体の混濁度評価

古川翔大(山口大学大学院) 他5名

4-7. 九州・沖縄支部

{支部長: 和田 親宗}

(1) 第37回支部代議員会

1) 月 日: 平成28年10月16日(日)

2) 会 場: 唐津ロイヤルホテル(佐賀県唐津市)

3) 議 題

- ・平成28年度活動報告と決算
- ・平成29年度活動計画と予算案
- ・平成29年度第38回大会について
- ・その他

(2) 第37回支部総会

1) 月 日: 平成28年10月17日(月)

2) 会 場: 唐津ロイヤルホテル(佐賀県唐津市)

3) 議 題

- ・平成 28 年度活動報告と決算
- ・平成 29 年度活動計画と予算案
- ・平成 29 年度第 38 回大会について
- ・その他

(3) 第 37 回九州・沖縄支部大会

(電子情報通信学会第 86 回福祉情報工学研究会と共催)

1) 月 日: 平成 28 年 10 月 16 日 (日) ~17 日 (月)

2) 会 場: 唐津ロイヤルホテル (佐賀県唐津市)

3) 大会長: 庄司卓郎 (産業医科大学 産業保健学部)

4) 発表演題数: 特別講演 2 件, 一般講演 16 件

特別講演 1 (日本人間工学会 PIE 研究部会 合同企画)

「こころとからだ ~感情変化による生理変化」

三宅晋司 (産業医科大学, 日本人間工学会 PIE 研究部会長)

特別講演 2

「人間工学専門家認定機構の活動」

福住伸一 (NEC データサイエンス研究所, 日本人間工学会 人間工学専門家認定機構 機構長)

参加者: 延べ 64 名

最優秀発表賞: 鶴原一樹 (産業医科大学)

優秀発表賞: 尾上あゆみ (熊本大学) ならびに新飼伸崇 (九州大学)

懇親会: 唐津ロイヤルホテル (佐賀県唐津市)

(4) 「九州支部第 37 回大会講演集(九州人間工学 第 37 号)」の作成

(5) 「九州人間工学 第 37 号」の発送

5. 研究部会活動

5-1. 医療安全研究部会

{部会長: 土屋 文人}

(1) 活動目的

平成 27 年度に厚生労働科学特別研究「子供の医薬品誤飲防止のための包装容器評価に関する研究」が実施され、その研究結果が平成 28 年 5 月末にはまとめられることとなった。消費者安全調査委員会から子どもの医薬品誤飲防止対策については平成 26 年末に中間報告が、平成 27 年末には報告書が公表されている。本年度は厚労科研の研究がまとめられたことから、これらについてシンポジウムを開催し、医薬品の包装に関する人間工学的な事故防止策について意見交換を行う場を提供する予定である。

一方、国の医療制度は 2025 年を目途として、従来の医療機関完結型から地域完結型へとその態様を変えようとしている。すなわち従来の医療機関を中心とした対応から在宅中心へと変化することとなることから、今後は在宅における医療安全をいかに図るのかの検討も必要になると思われる。このような状況の下、医療安全部会としては、従来の医療機関における対応に加え、今年度より少しずつ在宅医療までを視野に入れて活動を行うこととする。

(2) 活動内容及び成果

平成 27 年度の厚生労働科学特別研究の報告書は平成 28 年 5 月に出されたものの、子どもの誤飲防止対策に対する具体的な対策を示すことはなく、平成 28 年度に製薬業界として職能団体等を引き続き協議を行い、子どもの誤飲防止に対応する実行可能な方策について検討を行うこととなった。そして製薬業界から示された対応策においてエビデンス化が必要なものについては、平成 29 年度に公的資金を利用して実施する流れとなったことから、当初予定していた医療安全部会における予定は実施せず、次年度に実施することとした。

5-2. 衣服人間工学部会

{部会長：猪俣 美栄子}

(1) 活動テーマ

平成24年度より「グリーンファッションに関する研究」をテーマに活動してきた。平成28年度は、9月に布の織り、染、加工に関わる企業の見学を行い、2月に「織と染の生産技術」についての講演と研究所の見学を行った。

(2) 活動内容

役員会2回、研究例会2回を開催した。

1) 第1回役員会：平成28年6月6日（月） 於 文化学園大学

2) 第2回役員会：平成29年3月23日（木） 於 文化学園大学

3) 第1回研究例会（見学会）

・開催日：平成28年9月1日（木）・2日（金） 於 京都

・見学先：

①スギシタ有限会社：主に半纏、幟、幕、旗などの印染を行っているが、有名デザイナーのコレクションのテキスタイルの染も依頼されている。デザインはパソコンで行われているが、染は職人の手作業である。

②株式会社三協：ブリーツ加工とその機械の販売を行っている。様々なデザインのブリーツがこの会社で工夫された機械の組み合わせにより作られていた。職人の技と言える。

③川島織物セルコン：緞帳から家庭のインテリア製品まで手掛けている会社で、糸から制作している。手織りの綴れ織り、機械織のジャガード、緞帳の綴れ織りの実際を見学した。

4) 第2回研究例会（講演と見学）

・開催日：平成29年2月21日（火）

・講演：文化・ファッションテキスタイル研究所 所長 宮本英二氏

「織と染の生産技術」

宮本氏はオリジナルの織製品の生産に努力された方で、手元で実際の資料を見ながらの講演は分かりやすかった。

・見学：文化学園大学 文化・ファッションテキスタイル研究所

工場、資料室等の見学

5-3. 触覚インタラクション研究部会

{部会長：小谷 賢太郎}

(1) 活動目的

本部会は、ヒトの触覚感覚という特性を機器やシステムなどに反映させることを研究する部会であり、触覚に関する基礎研究と応用研究の両側面を扱おうとしている。特に応用研究では実際の製品設計プロセスで活用できるノウハウを蓄積し、それらを積極的に公開することで触覚インタラクションの活用を促進することを目的としている。

(2) 活動内容及び成果

1) 2016年7月にトロントで行われたHCI International 2016において研究部会によるオーガナイズドセッションを開催し、関連の研究者と今後の触覚インタラクションの研究の方向性について議論する機会を得た。セッションでの演題は以下の通りであった。

- Empirical Study of Physiological Characteristics Accompanied by Tactile Thermal Perception - Relationship between changes in thermal gradients and skin conductance responses
- Why is tactile information not accurately perceived? Accuracy and transfer characteristics of visualized schematic images induced by perceived tactile stimuli
- Relationship between operability in touch actions and smartphone size based on muscular load

- Proposal and Evaluation of a Document Reader that Supports Pointing and Finger Bookmarking
- Designing Effective Vibration Patterns for Tactile Interfaces

2) 2016年6月26日に部会運営委員会および研究懇談会が行われた。研究部会の環境整備、定期行事の確認、ホームページの更新および触覚研究関連情報の発信手段の検討などの打ち合わせを行った。また、国内での関連動向に関する報告などが行われた。

5-4. 航空人間工学部会

{部会長：竹内 由則}

(1) 研究目的

航空人間工学に関する知識の普及および情報の共有化を目的として、本年度は、「安全運航への新たなアプローチ」をテーマとした活動を行った。

(2) 方法・手段

上期の活動として例会を開催した。また、下期の活動として施設見学会を行った。概要は以下のとおりである。

1) 例会（公開講座）

第98回例会（公開講座）を以下の内容で開催した。

本年度のテーマ「安全運航への新たなアプローチ」に沿った講演を行い、活発な議論が行われた。

日時：2016年6月24日（金） 10:30-16:40

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟 417号室

参加者数：119名

講演：

- ・演題 「脳波を用いたパイロットのワークロード評価について」
講演者 荒毛 将史 氏（航空自衛隊 航空医学実験隊 第1部 人間工学科 人間工学班長）
- ・演題 「災害救援航空機情報共有ネットワーク（D-NET）の研究開発」
講演者 小林 啓二氏（国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構 航空技術部門 航空技術実証研究開発ユニット 主任研究開発員）
- ・演題 「On your mark, Get set, Upset !!（UPRTの世界動向と私たちの準備）」
講演者 菊地 和也 氏（ATEC Working Group メンバー
ANA フライトオペレーションセンター オペレーションサポート部
アシスタントマネジャー）
- ・演題 「A350に導入されている新技術と特徴について」
講演者 ジャン ミッシェル ロワ
Jean-Michel Roy 氏（エアバス社 テストパイロット）

2) 施設見学会

平成2016年度施設見学会を以下の要領で実施した。

日時：2017年2月15日（水）10:30-15:00

場所：東海旅客鉄道株式会社 東京駅 構内施設

参加者数：32名

内容：・運行管理施設およびダイヤについての説明および関連する質疑応答
・シミュレータを含む運輸所の見学および関連する質疑応答等

3) 委員会

本部会の運営に係る方針を決定するために、今年度は委員会を2回開催した。委員会の概要は以下のとおりである。

- ・第63回委員会（2016年度第1回 委員会）

日時：2016年12月7日（水） 16:30-18:00

場所：（公財）航空輸送技術研究センター（ATEC） 会議室

議題：

- ・本年度活動状況
 - ・第98回例会（公開講座）
 - ・第99回例会（公開講座）
 - ・見学会
 - ・今後の委員会・幹事会の予定
 - ・事務局の交替（来年度から2年間 JAL 社が事務局業務を実施）
- ・第64回委員会（2016年度第2回委員会）

日時：2017年3月9日（木）16：30-18：00

場所：（公財）航空輸送技術研究センター（ATEC） 会議室

議題：

- ・下期見学会について
- ・第99回例会（公開講座）について
- ・2016年度会計報告
- ・2016年度事業報告と2017年度事業計画
- ・2017年度事業計画
- ・第99回例会の準備
- ・今後の予定 / その他

その他、委員会および例会の活動準備等のため、2016年度は幹事会を4回開催した。

4) ホームページの運営

インターネットホームページにより、非会員も含め多くの関係者に対して航空人間工学への理解・関心を深めることに貢献した。例会の申し込みはホームページから行えるようになっており、広く周知できることで、今年度の活動においては非会員からの参加申し込みも多数あった。

(3) 成果及び展望

本年度は「安全運航への新たなアプローチ」をテーマに、例会では講演を通して、脳波を用いたワークロード評価に基づく研究、ヘリコプターを活用した災害救難活動におけるヘリコプター動態管理システムの運用、Upset Prevention & Recovery Training の世界動向と本邦の準備、航空安全を目指してA350に導入された新技術について参加者間でそれらの知見を共有し、理解を深めることができた。

また、施設見学では東海旅客鉄道株式会社様に自社の運行管理施設、教育・訓練施設の見学を実施させていただき、安全運行を担保するための活動の紹介をいただくとともに関連する意見交換を実施することによりヒューマンファクターに注目した安全面の向上の重要性を関係者で再認識・共有できたものとする。

5-5. アーゴデザイン部会

{部会長：高橋 克実}

(1) 目的と活動テーマ：

本部会は、モノづくりやサービス開発のために人間工学とデザインが融合した学際分野(アーゴデザイン)に対して、産学共同で研究を行い情報発信することを目的としている。平成28年度は「三方よしのピジョン提案型デザイン手法の実践」～ユニバーサルデザイン4.0～を活動テーマに、三方よしのピジョン提案型デザイン手法の実践を中心に進め、三方よしのピジョン提案型デザイン手法のための手法確立に向け、方向性を見いだす研究とその成果の情報発信を行ってきた。

(2) 部会運営と主な活動内容

- ・部会員：116名(正会員73名、学生会員43名、平成29年3月11日現在)
- ・活動概要：平成28年度は企画セッション1回、フォーラム2回、大学間交流イベント1回、コンセプト事例

発表会1回、見学会1回、合宿研究会1回、他に、幹事会4回、総会1回、ソーシャルセンタードデザイン・ワーキンググループ(SCD-WG)ミーティング7回、フューチャーエクスペリエンスワーキンググループ(FX-WG)ミーティング1回等の様々な活動を実施してきた。以下に主な活動を記す。

1) 日本人間工学会第57回全国大会企画セッション

アーゴデザイン部会・ビッグデータ人間工学研究部会合同シンポジウム
「アーゴデザインとビッグデータ」

於：三重県立看護大学 参加者：50名（平成28年6月26日）

オーガナイザ：新家敦（㈱島津ビジネスシステムズ）、講演者：木村 一久（株式会社 タカサ）、
高橋克実（ホロンクリエイト）、早川 誠二（人間中心設計よろず相談）、
上田義弘（富士通デザイン）、堀野 定雄（神奈川大学）

2) コンセプト事例発表会開催（平成28年9月2日）

於：芝浦工業大学 芝浦キャンパス、参加者：59名

企画セッション4件、口頭発表：11件、ポスター展示：15件を実施。

3) 見学会開催（平成28年10月1日） 見学先：羽田クロノゲート、見学会参加者：11名

テーマ：「物流の未来“バリュー・ネットワーキング”構想を体感する」

4) 第1回フューチャー・エクスペリエンス・フォーラム（FXフォーラム）開催（平成28年11月25日）

於：富士通株式会社 HAB-YU（六本木） 参加者 30名

テーマ：「ソーシャルセンタードデザインの事例とアプローチ」

小橋 真哉（株式会社コンセント）、坂口和敏（富士通デザイン）

5) 大学間交流イベント「ソーシャルセンタードデザインにチャレンジしよう」を開催。

於：首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス、参加者：学生18名、教員5名（平成28年11月26日）

6) 第2回フューチャー・エクスペリエンス・フォーラム（FXフォーラム）開催（平成29年1月29日）

於：株式会社島津製作所、参加者数：30名

7) 2016年度合宿研究会（平成29年3月10日、11日）

於：湘南国際村センター、参加者：26名

テーマ：「フューチャーエクスペリエンス：FX（三方よしのビジョン提案型デザイン手法）」

ワークショップ：「10年後の私のライフスタイルと楽しい体験（サービス）」をテーマに
新しいサービスを発想する

講演：「テクノロジーの進歩」

講師：森信 一郎（千葉工業大学 知能メディア工学科教授）

8) 2016年度部会総会開催（平成28年3月11日）

於：湘南国際村センター、参加者：24名

2016年度活動報告及び決算、2016年度活動計画及び予算の審議、承認

9) WG 活動：

SCD-WG、FX_WG 活動中（担当幹事：高橋、山崎、上田、早川、郷、西内、安藤、笠松、八木）

10) 独自ドメインによるアーゴデザイン部会ホームページの運用、部会員メーリングネットワークの運用、幹事会メーリングネットワークの運用を実施。新デザインの部会ホームページで運営。

(3) 成果と展望：

- ・ヒューマンセンタードデザイン(HCD)に加え、社会、環境面からもデザインを考えるソーシャルセンタードデザイン(SCD)の概念を提唱してきたが、フューチャーエクスペリエンス(FX)に新たに名称を変更し、三方よしのビジョン提案型デザイン手法として、実践的な手法が見えてきた。
- ・今後はソーシャルセンタードデザイン(SCD)の言葉は使わず、フューチャーエクスペリエンス(FX)として、進化させた Experience Vision の手法の確立を進め、実践事例を通じた研究のまとめをしていきたい。

5-6. 感性情報処理・官能評価部会

{部会長：梶谷 哲也}

(1) 活動目的

感性情報処理と官能評価に関わる諸問題について基礎から応用まで多角的に取り上げ、研究者どうしの情報交換と研究の活性化および研究内容の深度化に資する機会を提供するとともに、この領域の若手研究者の拡大、育成をはかる。

(2) 手段・方法

1) 第1回研究会を7月16日(土)に文化学園大学A181教室にて開催した。

- ・見崎大悟(工学院大学工学部機械システム工学科・ヒューマンインターフェース研究室)
「スタンフォード大学におけるデザイン思考と人間中心設計の教育・研究について」

2) 第2回研究会を10月22日(土)秋葉原ダイビル12階・秋葉原サテライトキャンパス会議室にて、首都大学東京 serBOTinQ と共催した。

- ・山下敏男(元首都大学東京教授、元日産デザイナー、INTERROBANG DESIGN 株式会社代表取締役)
「デジタルリードデザインプロセスに関する研究」
- ・相野谷威雄(ヴィー・ディー・エス株式会社代表取締役、
首都大学東京サービスロボットインキュベーションHUB・Managing Director)
「感性に関わる性能とデザインの関係」

3) 第25回システム大会の感性情報処理・官能評価セッション(Ⅰ)、(Ⅱ);平成29年3月14日(火)において、若手研究者による発表講演を組織、支援した。なお、詳細はシステム大会部会より報告。

4) 部会主催の公開講座(講義と実習)を8月3日(水)、文化服装学院メイキャップ実習室にて開催した。

- ・梶谷哲也(文化学園大学)
「美人の特徴-人間工学に基づくお化粧法-」
- ・夏目幸恵(文化服装学院ヘアメイク・化粧科学研究室)

「モデルを使ったメイクの実演および受講者個別指導」

5) 感性情報処理・官能部会の会員のみを対象にした勉強会を、平成29年2月15日(水)首都大学東京南大沢キャンパス(1号館109室)にて開催した。

- ・市原 茂((株)メディア・アイ感性評価研究所、首都大学東京名誉教授)
「心理学者を対象とした特許に関する解説」

(3) 成果

1) 第1回研究会には28名の参加があり、その多くが大手企業の非会員であった。

現在、商品に新たな魅力、価値をつけるための一つの方法として多くの異なる分野の社員を一つの部署にあつめて商品企画などをさせている企業が多いが、異分野の人材同士の有効な共同作業のノウハウについては、暗中模索の段階にあるようだ。

このような背景にあつて、今回の企画は問題意識の高い方の参加が多く、活発な講師との質疑応答がなされた。議論のなかで、現場の職人さんも企画への参加の機会が増えていることも明らかになった。

2) 第2回研究会には、首都大学東京 *serBOTinQ との共同開催で学会員と非会員で21名の参加を得て研究会を行った。

今回は2名の講師の講演内容をうけて、

- ・感性品質とは?
- ・人間工学を含めてデザインする意味
- ・どんな時にアイデアが発想されるか

などに関する質疑応答など、活発な検討がなされ、人間工学や感性的な視点から、モノにとどまらない“こと”づくりに関する議論を行うことができた。とくに serBOTinQ の会員の方々には新しい視点からのご意見をいただく事が出来た。

3) 第25回日本人間工学会システム大会の感性情報処理・官能評価セッションⅠ、Ⅱにおいて、若手研究者による14件の発表講演を組織・支援した。詳細はシステム大会部会より報告の予定。

4) 部会主催の公開講座（講義と実習）には、19名の参加があった。研究部会幹事以外は全て非会員の女性（主に大学生）であった。実際のメイキャップの実演と実習には、具体的な質問も多く出され、熱心に取り組まれていた。

本公開講座のねらいは、一般の方に科学的に明らかになった事実を背景として、実践的な技術（捉え方によってはアート）を理解していただくことにあった。講義の話題として取り上げた“平均顔”の話題を、夏目講師がうまく実践的なテクニックに落とし込んで有意義な実習としてくれた。今後も、アートともテクニックともとれる話題を“感性・官能”の視点から取り上げてゆきたい。

5) 感性情報処理・官能部会部会員のみを対象とした勉強会には、6名（全員会員）の参加があった。知財の権利の確保、例えば“特許”を題材として、主に心理学が専門の先生方に、心理出身で、現在ものづくりの最前線にいらっしゃる先生を講師に招いてご講演をいただいた。

一見、工学としては当たり前と考えられがちであるが、改めて拝聴すると研究計画上の権利化のタイミングや、発表の仕方に甘さがあることが明らかになった。特に、日本での発明の新規性喪失の例外規定（特許法第30条）に関する諸問題や、現在のオリジナリティの取り扱いや、国際学会やヨーロッパでの権利の考え方やアメリカの先願主義への変更などの説明は有益であった。

(4) 問題点と展望

日本（それ以外の国も）では、大企業を中心として異業種の専門家を一堂に会して（一つの職場に集めて）、新たな価値創造を試みる試みが多くなされていることが、ご講演を通して実感として理解できた。結果的に、心理学を主な専門とする先生方も、知財や特許などの実際のモノづくりにおける権利に関して深い理解が必要に成ってきている。

これは、少なくとも日本におけるモノづくりの品質において、工学に関わる“当り前の品質”とともに、新たに個人の主観に深く訴える“感性価値”がとても重視されていることも、大きな要因の一つと考えることができると思われる。

以上の背景に基づいて、本年度も研究会・公開講座や勉強会等、それぞれ有益な成果を上げたと考えている。今後も引き続き、感性・官能の分野を研究領域に含む若手の研究や萌芽的研究に関する、発表・（指導的な指摘も含めた）議論ができる場を提供して行きたい。

ただし、本年度の反省点として、研究会・公開講座など、それぞれで理由は異なるものの、結果として告知期間が一月以下になってしまった。今後は、企画の準備を前倒しにし、さらに確認を十分行うことで、このようなことの無いようにしてゆく。併せて、今後も、感性・官能の分野を研究領域に含む若手の研究や萌芽的研究の活性化を留意して事業を行ってゆく。

*serBOTinQ（サービスロボットのインキュベーションハブプロジェクト）
<http://tmu2020.jp/campus-info/hino/380/>

5-7. 看護人間工学部会

{部会長：佐伯 由香}

(1) テーマ

より安全で安楽な根拠ある看護技術や看護器械・用具の開発、QOLの向上に向けた環境の提案、快適な仕事場や住まい、高齢者に優しい環境などの研究成果を発信する。

(2) 手段・方法

1) 第24回看護人間工学部会総会・公開研究会・講演会の開催

平成28年11月5日（土）に愛知県立大学において愛知県立大学看護学部の箕浦哲嗣教授が主催した。一般演題の発表、愛知県立大学 石垣亨先生・掛谷勇三先生による教育講演「ピアノ演奏の永遠のテーマ、“脱力”とは

何か？」ならびに社会医療法人杏嶺会一宮西病院 野々山孝志先生による特別講演「サルコペニアの今」が行われた。

- 2) 「人間工学」誌に部会会員が論文投稿するよう呼びかけた。
- 3) 看護人間工学研究誌第 17 巻を発行(平成 29 年 3 月) し、部会員に送付した。
- 4) ホームページやメーリングリストを活用し、日本人間工学会第 58 回大会への参加を広くよびかけた。

(3) 成果

1) 第 24 回看護人間工学部会総会・公開研究会・講演会

参加者は 35 名、一般演題 9 題の発表があった。教育講演、特別講演、いずれも活発な意見交換が行われた。

2) 部会会員による日本人間工学会誌への論文投稿

今年度は残念ながら部会会員の論文の掲載はなかった。

3) 看護人間工学研究誌第 17 巻を発行(平成 29 年 3 月) し、部会員に送付した。

寄稿 3 編、総説 1 編、原著 3 編、研究報告 1 編、第 24 回看護人間工学部会抄録などを掲載した。

(4) 問題

1) 看護人間工学部会会員で、まだ日本人間工学会に加入していない会員がいる。

2) 「人間工学」「看護人間工学研究誌」への投稿が少ない。

3) 部会のホームページの英語版を設けることを目標として取り組んできたが、出来ていない。

(5) 展望

1) 看護人間工学部会員の人間工学会への入会促進に向けて引き続き取り組んでいく。

2) 本部会での研究発表と「人間工学」「看護人間工学研究誌」への投稿を促進する。

3) 看護人間工学部会のホームページの英語版を設ける。

4) 看護人間工学研究誌、研究発表会の充実をはかる。

5-8. 海事人間工学研究部会

{部会長：吉村 健志}

(1) テーマ

海事分野における人間工学研究の応用と課題

(2) 手段・方法

1) 企画セッションの提案 1

平成 28 年 6 月 26 日、日本人間工学会第 57 回大会にて一般企画シンポジウムを以下の通り、企画、開催した。当日は、限られた参加者数であったことから、講演後は座談会方式のディスカッションとして、充実した議論をおこなった。

テーマ：三重における海事分野の人の匠

目的：海事に関わる人の活動場所として、太古より栄える伊勢をおひぎ元にもつ三重で大会が開催されることを機に、三重における海事に関する人（ヒト）の匠について紹介し、その中で特に国際的にも代表される海女について取り上げる。そして、人（ヒト）の有形、無形の匠について人間工学的な討論を行い、海事人間工学の発展につなげる。

オーガナイザー：村井康二、司会：吉村健志

講演：

1. 三重における海事に関する人の匠 竹内千尋（志摩市議会議員／前志摩市長）
2. 海女と匠 山下真千代

2) 企画セッションの提案 2

平成 28 年 6 月 19 日、第 52 回日本交通科学学会総会・学術講演会にて一般企画シンポジウムを下記の通り、企画、開催した。自動車の自動運転に係る産学官の取り組み等、交通モード間での議論を通じて、自律航行船の実現に向けた課題を明らかにした。

テーマ：航行安全の課題と将来

目的：法学、海事システム工学、情報通信などの側面から航海の安全を実現するための取り組みを紹介するとともに、自律航行船の実現に向けた課題を明らかにする。

オーガナイザー、司会：吉村健志

講演：

1. 航行安全を支える情報通信技術 丹羽康之（海上技術安全研究所）
2. 航行安全を支える航法 田丸人意（東京海洋大学）
3. 航行安全を支える法学 逸見真（東京海洋大学）

3) 幹事会の開催

研究部会の円滑な運営を図るためメールによる幹事会を開催し、代表幹事を兵庫県立工業技術センターの才木常正氏とすること、また事務局を神戸大学から海上技術安全研究所へ移すこととした。

4) 協賛

The 2016 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics (SMC 2016) SS on Human-Centered Transportation Systems の Session 企画を協賛した。

(3) 成果

研究会の開催、国際会議との Joint セッション企画等をおこない、最新の海事関連研究に関する情報を広く発信できた。また、企画シンポジウムを通じて、海事分野における人間工学研究の応用事例を把握できた。

(4) 展望

人間工学を専門とする若手研究者が、海事分野における研究課題に関心を持てるよう、さらに魅力的な研究会及び見学会を開催する。

5-9. ビッグデータ人間工学研究部会

{部会長：新家 敦}

(1) 活動目的

ビッグデータ解析に人間工学の知恵を与える。部会員向けに、実験や調査だけでなく、ビッグデータの活用を促す。

(2) 手段・方法

- 1) 幹事会を組織した。
- 2) 幹事会（発起人会）を2016年5月21日に開催した。電子メールによる会議を随時開催した。
- 3) 第57回日本人間工学会全国大会（2016年6月26日、三重県津市、三重県立看護大学）において、アーゴデザイン部会との合同シンポジウムを開催した。参加者数は約50名。

講演内容は以下である。（○印発表者）

1. 保険薬局におけるビッグデータを活用した価値共創システムのビジョン
○木村 一久（株式会社 タカサ）
野口剛（株式会社 タカサ）、青野成紀（株式会社 タカサ）
2. 看護師向け IoT 機器システム開発手法
—安心と効率のために輸液処置を支援する看護機器の開発—
○高橋 克実（株式会社ホロンクリエイト）
古屋 明彦（株式会社 トライテック）
3. 三方よしのうれしい経験を創造するビジョン提案型デザイン手法
○早川 誠二（人間中心設計よろず相談）
上田 義弘（富士通デザイン株式会社）、郷 健太郎（山梨大学）、
高橋 克実（株式会社ホロンクリエイト）、八木 佳子（イトーキ）、
山崎 和彦（千葉工業大学）

4. IoT サービスやデバイス開発に向けたデザイン手法の拡張
ーIoT デバイスとデータソリューションサービスの開発に向けてー
○上田 義弘 (富士通デザイン株式会社)
5. 運行支援型クラウドサービス対応ドラレコ・デジタコ車載大型トラック急ブレーキ多発地点の人間工学的分析
○堀野 定雄 (神奈川大学)
- 4) 第1回ビッグデータ勉強会 (関西) (2016/11/05、株式会社島津製作所 本社) を開催した。勉強会とは、これまで主に実験室実験を行っていた研究者を対象とし、ビッグデータを研究者自らの研究に取り込むための身近な事例紹介や調査手法を学ぶ場とするものである。今後、継続して開催して行く。

参加者 14 名。

講演内容は以下である。

1. 「実験室実験の限界」
大阪市立大学 岡田 明
2. 「行動観察×ビッグデータ 新たな価値を生むために」
大阪ガス 行動観察研究所 松波晴人
3. 「ビッグデータの利活用に関するデザインービッグデータを利活用するビジョン開発やサービスデザイン事例のご紹介ー」
富士通デザイン 上田義弘

※「人間工学」2016年12月号に倉持淳子氏による学術集会開催報告を掲載

- 5) 第2回ビッグデータ勉強会 (関東) (2017/02/23、芝浦工業大学 芝浦キャンパス) を開催した。

参加者は約 30 名。

講演内容は以下である。

1. 「ビジネスユースにおけるデザイン」
岩崎竜矢 (日本アイ・ビー・エム)
2. 「自動運転とドライブレコーダー」
堀野定雄 (神奈川大学)
3. 「AI×IoT」クラウドで実現する新しい家電インタフェースの世界
上田徹 (シャープ)

(3) 成果

勉強会について。参加者の顔ぶれを見ると、人間工学会会員外の会社員、医療関係者、弁護士など多様であり、学会外にアピールできたと考える。

本年度は、ビッグデータを知り、馴染むことを目的に会員自らが勉強する場の提供を行った。以前よりもビッグデータを用いることへの心理的障壁は低くなっていると思われる。

5-10. 安全人間工学研究部会

{部会長：鳥居塚 崇}

- (1) 研究部会の会員と、研究会の参加者を結ぶメーリングリスト (H29年3月末現在 165名登録) を用いた情報発信を行っている。鳥居塚 (日大) ほか、中西 (慶應義塾大)、吉村 (海技研)、山出 (社会安全研究所) が幹事メンバー。安全人間工学委員会と常に情報を交換・共有し、安全人間工学委員会 (首藤由紀委員長) の委員も部会運営に協力した。
- (2) 平成 28 年度は 3 回の研究会を開催 (主催・共催を含む) した。その日時、場所、演題は下記のとおりである。
 - 1) 第 24 回研究会 (日本人間工学会第 57 回での企画セッションとして開催)

日時：平成 28 年 6 月 25 日 (土) 16 時 10 分～17 時 10 分

場所：三重県立看護大学

コーディネータ：鳥居塚 崇 (日本大学)、中西 美和 (慶應義塾大学)

話題提供者：狩川 大輔 (東北大学)

- タイトル : Safety-II における「学習」ー成功からの学習の実現に向けた諸課題ー
 話題提供者 : 菅野 太郎 (東京大学)
 タイトル : Safety-II の諸相
- 2) 第 25 回研究会 (産業・組織心理学会, 立教大学現代心理学部附属心理芸術人文学研究所と共催)
 日時: 平成 28 年 9 月 4 日 (日) 13 時 10 分~15 時 50 分
 場所: 立教大学新座キャンパス 4 号館 2 階 N421 教室
 講演: 「安全方法論としての Safety-I & Safety-II の論理」
 講師: 小松原明哲
 パネルディスカッション: 「レジリエンス・エンジニアリング: ここが魅力, ここがわからん」
 企画・司会進行: 芳賀 繁 (立教大学現代心理学部教授)
 パネリスト:
 小松原明哲(早稲田大学): レジリエンス・エンジニアリングの立場から
 細田 聡(関東学院大学): ヒューマンファクターズの立場から
 高橋 潔(神戸大学): ヒューマン・リソース・マネジメントの立場から
 阿部 啓二(西日本旅客鉄道株式会社): 企業内実践家の立場から
- 3) 2016 人間生活工学ワークショップ 「生活者起点で生活安全を考える」
 (早稲田大学創造理工学部人間生活工学研究室・(一社)人間生活工学研究センター (HQL) と共催)
 日時: 平成 28 年 11 月 11 日 (金) 13 時~17 時
 場所: 早稲田大学 西早稲田キャンパス 55 号館 2 階第 3 会議室 (東京都新宿区大久保 3-4-1)
 ナビゲータ : 小松原明哲 (早稲田大学)
 話題提供者 : 米山真梨子 (消費者庁 消費者安全課事故調査室)
 タイトル : 消費者庁の消費者事故情報の収集と消費者安全調査委員会の取組
 話題提供者 : 長谷川祐子 (リスクウォッチ代表・元在日米軍海軍司令部地域統合消防隊予防課長)
 タイトル : 行動観察法に基づく消費行動分析
 話題提供者 : 宇田川将生 (東京海上日動リスクコンサルティング株式会社)
 タイトル : 製品安全コンサルティングの現場で感じること
- 4) 第 26 回研究会 (産業・組織心理学会作業部門研究会および認知心理学会安全心理学研究部会と共催)
 日時: 平成 28 年 12 月 10 日 (土) 14 時 00 分~17 時 00 分
 場所: 筑波大学東京キャンパス文京校舎 134 教室
 テーマ: 「現場の実態を把握するための観察技法」
 コーディネータ: 大橋 智樹 (宮城女子大学), 芳賀 繁 (立教大学)
 話題提供者 : 藤野 秀則 (福井県立大学)
 タイトル : 列車運転士の行動観察および分析
 話題提供者 : 北島 宗雄 (長岡科学技術大学)
 タイトル : 行動観察法に基づく消費行動分析
 話題提供者 : 原田 博一 ((株) 富士通研究所)
 タイトル : 組織にかかわるエスノグラフィーアプローチ
 指定討論: 芳賀 繁 (立教大学)

5-11. PIE 研究部会

{部会長: 三宅 晋司}

- (1) 第 57 回大会にてシンポジウム「生理指標で何がわかるかーその有効な使い方ー」を開催した。
 (2) SPR2016 (アメリカ心理生理学会, ミネアポリス, 9 月) にて, オーガナイズドシンポジウム PIE2016 を提案したが, 不採択となったため, 予定していたシンポジスト 4 名全員は一般発表 (ポスター) として発表した (全ポ

スターにPIEのロゴマークを掲示した).

- (3)九州・沖縄支部第37回大会(唐津, 10月)にて, 公開講座「こころとからだ 感情変化による生理変化」を開催し, 唐津市のホームページに案内を掲載していただいた.
- (4)部会編の資料集「一商品開発・評価のための一『生理計測とデータ解析ノウハウ』～生理指標の特徴、測り方、実験計画、データの解釈・評価方法～」が3月17日に(株)エヌ・ティー・エスより刊行された. 執筆者9名のうち, 6名が部会員である.
- (5)第2回ワークショップを関西支部総会(3月25日)に併せて開催し, 上記資料集に執筆していただいた蜂須賀知理さんに執筆内容と同じ話題の「顔表情による感情評価」の講演をしていただき, 「MATLABを用いた顔画像解析」と題した演習を行った(講師は大阪工大鎌倉快之氏). 出席者は協力学生も含めて18名(うち2名は講演のみ参加)であった.
- (6)平成29年4月3日現在 部会員数61名(うち, 日本人間工学会非会員23名).

5-12. システム大会部会

{部会長: 衛藤 憲人}

(1)活動テーマ:

感性情報処理・官能評価部会, 聴覚コミュニケーション部会, 旧ヒトをはかる部会, 旧座研究部会, 旧視覚エルゴノミクス研究部会が中心となり, 人間工学システム大会と称して25年前に発足した. 今回は東邦大学看護学部が主催し, 早稲田大学・西早稲田キャンパス(東京都新宿区)にて3月14日, 15日の二日間の日程で開催された. 企業展示を含め, のべ100名を超える参加者があり, 成功裏に終了した. 特に今回の大会では遠方からの若手研究者, 企業関係者の参加が多いことに加え, 新たに設立した看護セッションも極めて活発な情報交換が行えた. 大会および大会開催に向けて数回の幹事会を開いたので報告する.

(2)部会運営と主な活動内容

システム大会幹事会

・第1回システム大会幹事会

日時: 2016年6月18日(土)15:00~16:00

場所: 早稲田大学・西早稲田キャンパス(東京都新宿区)

議題: 本大会の今後の事業形態・開催形態 等

・第2回システム大会幹事会

日時: 2016年10月24日(土)15:00~16:00

場所: 早稲田大学・西早稲田キャンパス(東京都新宿区)

議題: 参加費, 夜話, セッション, 広報, その他部会運営について

・第3回システム大会幹事会

日時: 2016年12月17日(土)15:00~16:00

場所: 早稲田大学・西早稲田キャンパス(東京都新宿区)

議題: プログラム枠作成, 企業展示検討, 他

・第4回システム大会幹事会

日時: 2017年2月25日(土)15:00~16:00

場所: 早稲田大学・西早稲田キャンパス(東京都新宿区)

議題: 最終プログラム作成, 大会進行詳細決定, 他

(3)展望:

発足時は身内開催の性質が強かったシステム大会であるが, 近年全国, 特に企業研究者より演題が集まるようになった. これを機に, より開かれた学会を目指し, JES発展に向けて積極的展開ができればと考えている. また部会の論文誌「人とシステム」の英文紙を設立中である.

Ⅲ. 平成29年度事業計画(案)

1. 事業計画

{総務担当：中西 美和、大橋 智樹}

- (1) 一般社団法人日本人間工学会は、人間工学を実践する学術団体として、安寧な社会システムを構築するために寄与することを目指す。
- (2) 第58回大会を鳥居塚 崇大会長のもと平成29年6月3日(土)～4日(日)に、The 2nd Asian Conference on Ergonomics & Design を小谷賢太郎大会長のもと6月1日(木)～4日(日)、日本大学生産工学部津田沼キャンパスで開催する。
- (3) 平成29年定時社員総会を平成29年6月3日(土)に日本大学生産工学部津田沼キャンパスにおいて開催し、平成28年度事業報告・収支決算、平成29年度事業計画・収支予算の審議等を行う。
- (4) 第59回大会を大橋智樹大会長のもと平成30年6月2日(土)～3日(日)に宮城学院女子大学(宮城県仙台市)で開催することとし準備を進める。
- (5) 理事会を年4回以上開催する。
- (6) ホームページのコンテンツの充実、機能の追加をはかり、ホームページならびにニュースレターを中心に広報活動を推進することで人間工学の普及に努める。
- (7) 機関誌「人間工学」の第53巻2～6号および第54巻1号の計6冊を発行する。
- (8) 認定人間工学専門家資格認定試験(A方式試験)を年1回、筆記試験免除条項の適用(B方式試験)を年1回実施、また人間工学準専門家および人間工学アシスタント各試験を年4回程度実施する。その他、再認定制度(生涯研修制度)推進等の活動を行うとともにシンポジウム、講演会、セミナーを開催し、資格制度の対外アピールを積極的に行う。
- (9) 長期的に事業を行う常設委員会・担当と、特定の目標を定め、得られた成果を学会として組織的に活用する臨時委員会・担当を置く。常設委員会・担当としては、総務担当、財務担当、広報委員会、編集委員会、国際協力委員会、ISO/TC159国内対策委員会、表彰委員会、安全人間工学委員会、学術担当、企画担当、人間工学専門家認定機構を設ける。また臨時委員会・担当として、学会改革・戦略委員会、倫理指針検討委員会(正式名称：人間工学研究のための倫理指針検討委員会)、子供のICT活用委員会、IEA担当、選挙管理委員会、役員候補者推薦委員会、ACED2017・第58回大会担当および第59回大会担当を設置し、各事業を積極的に進める。
- (10) 支部活動および研究部会活動を推進し、その成果を学会員ならびに社会に広める。航空人間工学部会、アーゴデザイン部会、感性情報処理・官能評価部会、看護人間工学部会、海事人間工学研究部会、医療安全研究部会、ビッグデータ人間工学研究部会、安全人間工学研究部会、PIE研究部会、衣服人間工学部会、システム大会部会の計11研究部会で活動を行う。
- (11) IEA(国際人間工学連合)と連携して様々な国際協力活動を推進する。IEA会長業務のサポート、IEAウェブサイトのリニューアル支援、次年度IEA評議会への出席準備、IEAアワード申請への協力、IEA内の各委員会の協力を行う。
- (12) ISO/TC159(人間工学)分野の規格の作成・審議および人間工学JIS規格の作成、普及・啓蒙のための活動を行う。TC159総会(東京)、TC159/SC3総会(東京)、TC159/SC3/WG1会議(東京)、TC159/WG2会議(東京)の運営に協力する。
- (13) 平成29年度各賞の授与式を行う。また平成30年度各賞の選考を行うとともに、表彰の準備を進める。各表彰制度の公正かつ効率的な運営および国際表彰への対応の仕組みの検討・整備を進める。
- (14) 安全問題にかかわる日本人間工学会の様々な活動に関する提言、助言、実務を行う。
- (15) 日本学術会議、横断型基幹科学技術研究団体連合、及び文科省科学研究費助成事業等の活動を継続的にフォローする。
- (16) 学会主催の公開講座、シンポジウム等の行事に関する企画と調整を行う。
- (17) 学会事務局は、学会内外の情報伝達の要としての役割を果たすとともに、迅速で正確な業務の執行に努め、学会運営の基盤を支える。また、適宜業務内容を見直し、その効率化と経費節減をはかる。

2. 委員会・担当活動

[常設委員会・担当]

2-1. 広報委員会

{委員長：松田 文子、副委員長：山田クリス孝介}

- (1) 理事会、支部、委員会、研究部会などと連携・協力のもと、ホームページを中心に広報活動を推進することによって人間工学の普及に努める。重要ニュースのお知らせ、学会主催／協賛等のイベント案内等をホームページにて情報発信していく。
- (2) 「人間工学の総合データベース (ERGO Directory)」およびグッドプラクティスデータベース (GPDB) の取り組みを継続し、人間工学の社会への普及に努める。グッドプラクティスデータベース (GPDB) の掲載事例数を増加させる方策を検討していく。
- (3) HP のスペシャルコンテンツ「ピックアップがんばる人間工学家！」の企画・運営を引き続き行う。全国大会の特別講演映像を学会員専用サイトにて閲覧できるよう、引き続き整備を進める。
- (4) 学会員へ JES ニュースレターの e-mail 配信を、引き続き学会事務局と連携し推進する。
- (5) 50 周年記念企画として継続検討してきた「人間工学博物館 (バーチャルミュージアム)」の実装に向け、今後の取り組みについて、引き続き検討する。
- (6) グッドプラクティスデータベース (GPDB) の英訳掲載に向けて取り組む。
- (7) Facebook ページを公開するとともに、今後の運用方法を検討する。

2-2. 編集委員会

{委員長：赤松 幹之、副委員長：榎原 毅}

- (1) 学会誌「人間工学」の年6号分の編集・発行業務を行う。
- (2) 「人間工学領域発展のための場」としての学会誌のあり方について、方針を定める。
- (3) 論文投稿の推進を図る。投稿推進につながるクイック・レビュー制度を継続するほか、推進施策について引き続き検討を行う。
- (4) 投稿者への利便性向上、迅速な審査体制の整備および編集委員会業務の効率化を図るため、広報委員会と協力・連携し、電子査読管理システムを継続運用する。遅滞ない業務遂行を実現するため、学会事務局の協力を仰ぐ。利便性向上のために、必要に応じてシステムの改訂を行う。
- (5) 研究上の倫理的配慮と利益相反の申告、著作権譲渡に関して、学術担当と連携して会員への啓蒙をはかる。
- (6) 編集委員会を月1回開催する。うち、6回は対面委員会、6回はメーリングリストによる電子委員会とする。また対面委員会のうち2回程度は全体会議、4回程度は数拠点つないだweb会議とし、いずれも個人単位のweb参加を可とする。これにより、委員会経費の節減を図るとともに、編集委員の居住地格差が起きないようにする。
- (7) 日本人間工学会第58回大会において、編集委員会企画のシンポジウムを開催し、学会員と良い研究を生み出すための学会誌の役割についての議論を深め、学会誌のあり方について検討を行う。
- (8) その他、編集委員会所掌業務への迅速な対応をはかる。

2-3. 国際協力委員会

{委員長：小谷 賢太郎、副委員長：鳥居塚 崇}

- (1) ACED2017/JES58 の大会への支援
- (2) IEA 評議会(シンガポール、10月下旬予定)への参加
国際協力委員が JES からの council member として3名分の投票権執行
- (3) 国際協力活動およびその他
・IEA アワード申請への協力

- ・IEA 内の各委員会への協力
- ・ACED2017 開催に向けての支援
- ・ACED 評議会(ACED2017/JES58 会期中に開催)の準備
- ・ブラジル人間工学会 (URAERGO) との協力企画準備
- ・学会内各委員会などへ国際協力委員としての参加
- ・学会誌への国際学会参加報告の執筆 など

2-4. ISO/TC159国内対策委員会

{委員長：横井 孝志, 副委員長：佐藤 洋}

ISO/TC159 (人間工学) 分野の規格の提案、作成、審議、ならびに人間工学JIS規格の作成、普及・啓蒙のための活動を行う。

(1) 会議：全体会議3回、分科会延べ30回前後開催予定

(2) 予定されている主な審議項目

- ・WG2(高齢者・障害者の人間工学)
 - ・ISO/TR 22411 Ergonomic data and ergonomic guidelines for the application of ISO/IEC Guide 71(2nd Edition)
- ・SC1 (人間工学の一般原則)
 - ・ISO/DIS 7250-1 Basic human body measurements for technological design — Part 1: Body measurement definitions and landmarks
 - ・ISO/AWI 27501 - The human-centred organization - Management of ergonomics processes for consumer products
- ・SC4 (人間とシステムのインタラクション)
 - ・ISO/AWI 21055 Ergonomics - Accessible Design - Minimum legible font size for people at any age
 - ・ISO/CD 21056 Ergonomics - Accessible design — Guidelines for designing tactile symbols and letters
 - ・ISO/NP 24500-1 Ergonomics — Accessible design — Part 1: Indicator lamps on consumer products
 - ・ISO/NP 24500-2 Ergonomics — Accessible design — Auditory signals — Part 2: Voice guides for

(3) 国際会議予定

- ・TC159 総会 (東京)、TC159/SC3 総会(東京)、TC159/SC3/WG1 会議(東京)、TC159/WG2 会議 (東京) ほか

2-5. 表彰委員会

{委員長：青木 和夫, 副委員長：申 紅仙}

(1) 表彰選考等に関する広報委員会、編集委員会、国際協力委員会、人間工学専門家認定機構等と連携し、公正かつ効率的な業務運営を行う。

(2) 功労賞、論文賞、研究奨励賞、人間工学グッドプラクティス賞の選考を行い、各受賞者に対する授与式を行う。

(3) 前年度大会における優秀研究発表奨励賞の授与を行う。

(4) 表彰委員会ウェブサイトの拡充を図るとともに、受賞者や表彰事例の周知等、学会内外への情報提供に努める。

(5) 本学会以外の国内外の組織の表彰に対する候補者を推薦する。

2-6. 安全人間工学委員会

{委員長：首藤 由紀, 副委員長：鳥居塚 崇}

(1) 四半期ごとに委員会を開催し、安全問題にかかわる人間工学会の様々な活動に関する提言、助言、実務を行う。

- (2) 日本学術会議安全工学シンポジウム 2017 の実行委員に佐相委員が就任し、オーガナイズド・セッションを企画・運営するとともに、幹事学会（安全工学会）はじめ関係学会と共にシンポジウム全体の運営を行う。
- (3) 人間工学の視点から安全上の諸問題について社会に向けた発信を行うため、ウェブサイトを立ち上げる。
- (4) 安全人間工学研究部会による研究会などを通じて、特定テーマに関する議論を深め、社会に向けた提言をとりまとめて発信する。
- (5) 安全に関わる研究活動を行っている他の学協会との連携の幅を広げ、新しい交流・情報交換の機会をつくる。
- (6) 安全人間工学研究部会による、日本人間工学会第 58 回大会シンポジウム及び研究会の企画・運営をサポートする。

2-7. 学術担当

{担当：横山 清子、吉村 健志}

- (1) 日本学術会議、横断型基幹科学技術研究団体連合、及び文科省科学研究費助成事業等の活動を継続的にフォローする。
- (2) 「人間工学研究のための倫理指針」の改定について検討する。

2-8. 企画担当

{担当：岡田 明、阿久津正大}

- (1) 研究部会活動の活発化を図るため、研究部会規程を改訂・運用し、研究部会活動の可視化や成果発表に関わる公開講座等の件数増加を促進する。
- (2) 全国大会において、学会本部主催企画講演「榎原 毅：学生・若手向け教育講演シリーズ『人間工学研究を進めるにあたり知っておいてほしい7つのこと』」の企画を行う。
また、ACED と JES との共催シンポジウム「Cooperation in Asia on certification of professional ergonomists」の企画を行う。
- (3) その他、学会主催の公開講座や行事等に関する企画と調整を行う。

2-9. 人間工学専門家認定機構

{機構長：福住 伸一、副機構長：横井 元治}

- (1) 資格認定試験及び審査を実施する。
資格認定試験（A 方式試験）を年 1 回、筆記試験免除条項の適用（B 方式試験）を年 1 回実施する。
準専門家・人間工学アシスタント審査を年 4 回程度実施する。
A 方式試験：2017 年 9 月 2 日（土） 会場：日本教育会館（東京都千代田区）
- (2) 定期総会、講演会、幹事会を開催する。
総会 日時：2017 年 4 月 18 日（火） 16：35～17：30
会場：首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス BCD 室（講演会も同じ）
講演会 日時：2017 年 4 月 18 日（火） 15：00～16：30
講演 1：土屋文人 国際医療福祉大学（日本病院薬剤師会副会長）
「人間工学的視点からみた医療安全（医療における人間工学教育の必要性）」
講演 2：前川正実 北陸先端科学技術大学院大学
「イノベーション創出人材教育の成果と課題—人間中心設計の応用」
幹事会（2 回開催予定）
- (3) 再認定を促進するため、個別にご案内の連絡をし、ホームページにも再認定の手続きについて掲載する。
- (4) ACED2017（2017 年 6 月）の JES/ACED 共催シンポジウムに協力する。

- (5) 機構ホームページ、会報、人材DB (ERGO Directory)、学会大会、広告等を活用して会員の交流と本制度の対外アピールに努める。
- (6) CPE セミナー、CPE サロン(交流会)を充実させる。
- (7) 「人間工学グッドプラクティス賞」(GP 賞)の審査に積極的に協力する。
- (8) JES の国際協力委員会を通じ、IEA 専門家教育委員会の活動に協力する。
- (9) 学会内組織、他学会、他の資格認定組織との連携を行う。

[臨時委員会・担当]

2-10. 学会改革・戦略委員会

{委員長：榎原 毅、副委員長：吉武 良治}

- (1) 前年度検討を重ねた学会改革アクションプランについて具体的な制度設計を行う。
- (2) 学会改革アクションプランの骨子および学会員を対象とした意識調査結果を学会員と議論するために、第58回大会にて企画シンポジウムを開催する(シンポジウムタイトル:「学会活性化のためのアクションプランを皆で議論しよう!」)
- (3) ブラッシュアップを行ったアクションプランについて、各運用規程類の整備を行い、アクションプランの実行に着手する。

2-11. 人間工学研究のための倫理指針検討委員会 {委員長:石橋 基範、副委員長:大須賀 美恵子}

- (1) 「人を対象とする研究倫理に関する意識調査」の回答結果を分析し、日本人間工学会としての課題を検討して指針改訂のポイントや追加すべき内容を明らかにする。
- (2) 倫理指針の改訂版 ver. 1 を 2017 年 8 月頃、ver. 2 を 2017 年 12 月頃に理事会へ提案することを目標として、具体的な作成作業に着手する。

2-12. 子どもの ICT 活用委員会

{委員長:齊藤 進、副委員長:柴田 隆史、久武 雄三}

わが国では、国の戦略に沿った教育の情報化推進事業等により、小中学校における ICT 機器の導入と活用が急速に進められている。しかし、小中学校では、子どもの ICT 機器活用についての人間工学的視点はないままに、児童や生徒一人一台の情報端末や教室への電子黒板と実物投影機等の ICT 機器が導入されている現状である。

日本人間工学会 (JES) では、子どもの ICT 機器活用に関する人間工学課題を検討するため、子どもの ICT 活用委員会を設置し、各種情報を交換するとともに、ガイドラインの考え方等を整理してきた。

2017 年 6 月の JES 第 58 回大会において、本委員会として「学校における ICT 機器活用に関する人間工学ガイドライン」と題して発表する予定である。そこでは、柴田隆史委員が筆頭者となって学校で ICT 機器を活用する際の人間工学的留意事項と児童・生徒の健康面への影響等を紹介する。子どもにも分かりやすい人間工学ガイドラインは、フライヤーやポスター等として JES サイトで公開するとともに、各地域の小中学校等へ配布し活用して頂く工夫を凝らす計画である。また、JES 以外の他集会、例えば「情報リテラシー教育のこれからを考える」セミナーや他の学術集会等々の機会を活用し、JES 会員以外の協力も得ながら人間工学ガイドラインを周知させることにより、効果検証や改訂等へフィードバックさせたいと考えている。これらの活動を通して、必ずしも幅広い年齢層に理解されているとは言えない人間工学の考え方を広めるのも本年度の目標である。

2-13. IEA 担当

{担当：藤田 祐志、河合 隆史}

- (1) IEA 会長の諸業務にあたる（藤田祐志）。
- (2) IEA ウェブサイトの運用業務に従事する（主に河合隆史）。
- (3) その他必要なこと

2-14. 選挙管理委員会

{委員長：石橋 基範}

一般社団法人日本人間工学会定款に規定する代議員及び役員選挙に関する業務を行うため、選挙管理委員会を設置する。

2-15. 役員候補者推薦委員会

{委員長：堀江 良典}

一般社団法人日本人間工学会定款に規定する役員選挙に関わる次期役員候補者を検討し、推薦する。

2-16. ACED2017・第58回大会担当

{担当：小谷 賢太郎、鳥居塚 崇}

【開催日】2017年6月1日（木）～4日（日）

【大会会場】日本大学生産工学部

【懇親会場】日本大学生産工学部39号館2階食堂

- (1) 特別講演9件
- (2) 一般企画シンポジウム10件
- (3) Aced・学会企画シンポジウム6件
- (4) 一般講演（口頭発表、ポスター合わせて）241件
- (5) 学・協会等から協賛（予定42団体）
- (6) 大会案内はウェブサイト（<http://aced2017.org/>）、（<https://www.ergonomics.jp/conference/2017/>）を活用して行う。

2-17. 第59回大会担当

{担当：大橋 智樹}

【開催日】2018年6月2日（土）～3日（日）

【大会会場】宮城学院女子大学

3. 支部活動

3-1. 北海道支部

{副支部長：平沢 尚毅}

- (1) 会議
 - 1) 支部役員会 平成27年7月中旬（予定）
- ・平成28年度支部事業報告、決算報告並びに監査報告
- ・平成29年度予算案、支部事業計画案

- ・平成29年度支部総会並びに大会について
- ・その他

(2) 平成29年度支部総会並びに大会

大会長: 照井 レナ (旭川医大)
 日 時: 平成29年11月頃 (予定)
 場 所: 旭川医大 (予定)

1) 支部総会議題

- ・平成28年度支部事業報告、決算報告並びに監査報告
- ・平成29年度予算案、支部事業計画案
- ・平成30年度支部総会並びに大会について

(3) その他

年度内に、北海道支部のサイトを立ち上げる。

3-2. 東北支部

{支部長: 大橋 智樹}

(1) 支部役員会

- ・年3回以上開催予定 (支部研究会時に開催)
- 他、必要に応じメール審議にて実施

(2) 支部総会

- 1) 日時: 平成29年5月下旬開催 (予定)
- 2) 場所: 未定
- 3) 議事: 平成28年度事業報告、平成28年度決算報告
平成29年度事業計画案、平成29年度事業予算案、など。

(3) 支部研究会

年3回以上の開催を予定。支部内の複数地域での開催を通じ活動の活性化を目指す。

(4) その他

研究者と実務家の意見交換、連携支援を積極的に進める計画である。

3-3. 関東支部

{支部長: 三林 洋介}

(1) 第47回関東支部大会・第23回卒業研究発表会

- ・開催日: 平成29年12月16日(土)～17日(日)
- ・会場: 日本大学理工学部船橋校舎
- ・大会長: 松田礼先生
- ・特別講演、企画セッション、一般講演、卒業研究発表会など

(2) 支部委員会 年2回開催予定

開催日: 平成29年6月予定 会場: 首都大学東京
 平成29年12月16日(土) 会場: 日本大学
 通信支部委員会を必要に応じて開催

(3) 支部総会

開催日: 平成29年12月16日(土) 会場: 日本大学

(4) 見学会

開催日: 平成30年3月に実施予定

(5)その他

- ・企業・研究機関交流、講演会などを開催予定
- ・ニューズレターの発行
- ・支部HPの整備を推進 など

3-4. 東海支部

{支部長：齋藤 真}

(1) 日本人間工学会東海支部総会開催

- ・開催日時：平成29年5月27日(土) 15:00-15:30
- ・場所：名古屋市立大学桜山キャンパス (名古屋市瑞穂区)

(2) 講演会の開催

- ・開催日時：平成29年5月27日(土) 15:45-16:45
- ・場所：名古屋市立大学桜山キャンパス (名古屋市瑞穂区)
- ・演題：「達成度手法における作業習熟の評価について」
- ・演者：福田康明 (名城大学 名誉教授)

(3) 支部役員会

- ・第1回支部役員会 平成29年5月27日(土)13:30-14:30 名古屋市立大学桜山キャンパス
(年2回から3回開催予定、必要に応じてメール審議を実施。)

(4) 日本人間工学会東海支部2017年研究大会の開催

- ・開催日：平成29年10月21日(土)
- ・開催場所：中京大学工学部 (名古屋市昭和区)
- ・大会長：井口弘和 (中京大学 教授)

(5) 日本人間工学会東海支部主催「実務者・初学者のための人間工学測定技法講座」

- (年4~6回程度開催予定。開催が確定している講座は下記の通り。)
- ・第12回 「製品の「心地」を評価する：ヒトが触れるモノを例にして」
平成29年5月19日(水)
松岡敏生 (三重県工業研究所 プロジェクト研究課長)
- ・第13回【特別企画】 あなたもできる！統計解析が苦手な人のための超入門講座
—無料統計ソフト「R」の基本をマスターしよう—
(日本人間工学会東海支部・関東支部および人類動態学会の共催企画)
平成29年5月26日(金) (TKP 東京駅前会議室)
榎原 毅 (名古屋市立大学大学院 講師)
松田文子 (公益財団法人大原記念労働科学研究所 特別研究員)
山田泰行 (順天堂大学スポーツ健康科学部 助教)

3-5. 関西支部

{支部長：白井 伸之介}

(1) 企画・行事等

- 1) 見学会 平成29年12月8日(金) 兵庫県立工業技術センター (予定)
- 2) 支部大会
開催日：平成29年12月9日(土) (予定)
会場：神戸市産業振興センター (兵庫県神戸市中央区)
大会長：才木 常正 先生 (兵庫県立工業技術センター)

- 3) 講演会等 平成30年3月頃 (支部総会と併催)
- (2) 会議・総会等
 - 1) 第1回企画幹事会 平成29年6月頃
 - 2) 第1回評議員会役員会合同会議 平成29年12月9日
 - 3) 評議員選挙 平成29年12月～平成30年1月
 - 4) 選挙管理委員会, 第2回企画幹事会 平成30年1月頃
 - 5) 第2回評議員会 (メール審議) 平成30年2月頃
 - 6) 第2回評議員会役員会合同会議 平成30年3月頃 (総会と併催)
 - 7) 支部総会 平成30年3月頃
 - 8) 優秀発表賞授賞式 (支部総会時)

3-6. 中国・四国支部

{支部長:村田 厚生}

- (1) 支部理事会開催
 - 第1回: 2017年12月9日 (土), 場所: 山口大学理学部 (予定)
 - 第2回: 2018年3月下旬, 場所: 岡山大学工学部 (予定)
- (2) 支部総会開催
 - 2017年12月9日 (土), 場所: 山口大学理学部 (予定)
- (3) 支部大会開催
 - 第50回日本人間工学会中国・四国支部大会
 - 2017年12月9日 (土), 大会長: 内野英治先生 (山口大学理学部)
 - 場所: 山口大学理学部 (予定)
- (4) 支部講演会開催
 - 2017年12月9日 (土), 場所: 山口大学理学部 (予定)
- (5) 支部表彰の実施
 - 2018年3月
- (6) 支部主催・共催の研究会の実施
 - 随時

3-7. 九州・沖縄支部

{支部長:和田 親宗}

- (1) 活動計画
 - 1) 第38回支部代議員会
 - ・開催日: 平成29年12月を予定
 - ・会 場: 九州北部を予定
 - 2) 第38回支部総会
 - ・開催日: 平成29年12月を予定
 - ・会 場: 九州北部を予定
 - 3) 第38回支部大会
 - ・開催日: 平成29年12月を予定
 - ・会 場: 九州北部を予定
 - ・大会長: 未定
- (2) その他

4. 研究部会活動

4-1. 航空人間工学部会

{部会長：竹内 由則}

〈H25. 4. 1～5年以内〉

(1) 研究目的

航空人間工学に関する知識の普及、情報の共有化を目的として、本年度は「空の安全—新たな動向」をテーマとし、航空事故事例から得た人間特性及びマンマシンインタフェースに関わる問題、次世代の航空機等における事故防止技術の動向を分析検討する。

(2) 方法・手段

1) 研究例会の開催

日時：2017年7月7日(金) 9:30-16:30

場所：調整中

【予定講演】として

- 1) CARATS 計画のアップデート (JCAB 交通管制部 交通管制企画課)
- 2) 疲労管理について (ATEC)
- 3) Flight Data Predictive Caution System フライトデータの活用例 (ANA)
- 4) OGE ホバリングのダウンウォッシュ 地上に及ぼす影響について (朝日航洋)
- 5) インドネシア エアアジア QZ5801 便の事故から学ぶ (JAL)

2) 施設見学会の実施

下期に施設見学会を計画・実施する。

3) 部会ホームページの運営

インターネットを使った部会ホームページを活用して当研究部会の活動内容を広く周知するとともに、活動案内の掲示や会員からの参加申し込みを活用する。本年度は、ホームページ以外の新たなMediaの活用についても実現の可能性と維持管理方法について検討する。

4) 委員会・幹事会の開催

適宜委員会及び幹事会を開催し、部会活動を円滑に行うとともに、会員の意見を部会活動に反映させるよう努める。

(3) 期待される成果

航空安全の推進に関わる官・民・学の多くの組織が関わっているため、これらの関係者が交流し討議を重ね、情報を共有する場を当研究部会が提供することにより、航空人間工学の知見獲得が可能となる。また、航空の安全の推進へ大きく貢献できるものとする。

4-2. アーゴデザイン部会

{部会長：高橋 克実}

〈H25. 4. 1～5年以内〉

(1) 活動テーマ

「フューチャーエクスペリエンス：FX（三方よしのビジョン提案型デザイン手法）の実践」

平成29年度はフューチャーエクスペリエンス：FX（三方よしのビジョン提案型デザイン手法）の確立に向けた実践的な手法で事例を通じた研究活動を実施する。また、これまで研究してきたビジョン提案型デザイン手法との関係を明快にし、アーゴデザインを実践する。また、日本人間工学会編として出版した「ユニバーサルデザイン実践ガイドライン」をスタートとした研究も、今回のテーマである「Future Experience:FX（三方よしのビジョン提案型デザイン手法）」ではユニバーサルデザイン研究を超えるステップとなるため、もう一度ユニバー

サルデザインの原点に立ち返り、これを視野に入れた研究を進める。

(2) 手段・方法

1) FX-WG(ワーキンググループ)の活動強化

前期までのSCD-WGは、今年度からこの言葉を使わないこととなり、FX_WGとして活動を再スタートする。部会活動のテーマである「三方よしのビジョン提案型デザイン手法」の検討を本格化させ、新たな方法論確立に向け、実践によるプロセスを実施可能な形で明確にする。UD-WGの「ユニバーサルデザイン実践ガイドライン」の改訂はFuture Experienceの活動と一体化した研究活動とし、方法論発表の機会を創り出す。

2) ビジョン提案型デザイン手法の啓蒙・普及活動の実施

「ビジョン提案型デザイン手法」については、これまで以上にEXPERIENCE VISION普及のためのイベントと兼ね合わせたセミナーやフォーラムを開催して、「FX(三方よしのビジョン提案型デザイン手法)」との連携を図る。

3) 学生会員に対する部会活動の充実

定着した学生会員制度により、学生会員が固定化している。これまで以上に学生の研究やデザイン活動を支援する活動の充実を図る。これにより、次世代を担う研究者やデザイン実務者の育成を強化する。

(3) 期待される効果

テーマに関する研究を本格化することで、将来の社会、環境のあり方を見通し、人間生活をデザインするための基盤となる三方よしのビジョン提案型デザイン方法論(手法やプロセス)を提供することができる。更にこの方法論を取り入れた「新しいEXPERIENCE VISION」の啓蒙・普及により、社会、環境、産業に貢献できる。

(4) 活動予定

- 4月 幹事会(幹事の役割、担当行事の検討)
- 6月 第3回FXフォーラム(関東)
- 7月 大学間交流イベント開催、幹事会
- 9月 コンセプト事例発表会、幹事会
- 10月 部会次期幹事選挙
- 11月 見学会開催
- 1月 第4回FXフォーラム(関西、HCD-net同時開催予定)
- 3月 2017年度合宿研究会、アーゴデザイン部会総会、幹事会

4-3. 感性情報処理・官能評価部会

{部会長: 梶谷 哲也}

<H25.4.1~5年以内>

(1) テーマ

感性情報処理と官能評価に関わる諸問題について基礎から工学的応用までを多角的に取り上げ、研究者・デザイナーおよび職人どうしの情報交換と研究の活性化および研究内容の深度化に資する機会を提供するとともに、この領域の若手研究者およびデザイナーの育成をはかる。

(2) 手段・方法

感性情報処理と官能評価の基盤である人間の感覚・知覚・感情・認知等の諸特性およびそれらの測定・評価方法や数理モデル等の研究成果や製品等の開発成果について先端的独創的な研究を紹介する講演会、さらに若手研究者を主体とした研究会また関連の研究・開発施設や工房などの見学会などを企画、実施する。それらを通して研究者やデザイナーどうしの情報交換や交流を図るとともに若手研究者・デザイナーの研究意欲を喚起し有益で具体的なアウトプットの創出を支援する。

(3) 期待される成果

感性情報処理と官能評価に関わる研究者の関心や専門領域を共有しつつ新たな情報や手法などに刺激されたり学んだりする機会を広範に提供することにより、とくに若手研究者の裾野の拡大や諸研究のいっそうの活性化が期待できる。

また、研究成果の実用化に伴うさまざまな困難・課題を共有して議論し相互に支援する機会を通じて人間工学のいっそうの発展に資することが期待できる。

さらに、人間工学の実践における人間理解の拡大・深度化にもつながるものと考えられる。その過程で、これまで職人の職能として伝えられてきたモノづくりのノウハウを技術化・見える化を通して、モノづくりのノウハウを現職の職人・デザイナーに提案することで、これまでのモノづくりに感性価値を付加することを可能とする。

4-4. 看護人間工学部会

{部会長：水戸 優子}

〈H25. 4. 1～5年以内〉

(1) テーマ

より安全で安楽な根拠ある看護技術や看護器械・用具の開発、QOLの向上に向けた環境の提案、快適な仕事場や住まい、高齢者に優しい環境などの研究成果を打ち出すとともに、看護実践・教育現場にフィードバックする。

(2) 手段・方法

1) 第25回看護人間工学部会総会・公開研究会・講演会の開催

敦賀市立看護大学 伊部亜希准教授が主催し、第25回看護人間工学部会総会・研究発表会・講演会を開催する予定である。一般演題10題を目標に部会員に呼びかけ、参加を促す。

2) 日本人間工学会誌に部会から論文を投稿するよう呼びかける。

3) 日本人間工学会第59回大会に参加するよう呼びかける。

4) 看護人間工学研究誌第18巻を発行(平成30年3月)し、部会員に送付する。

5) 看護人間工学部会のホームページの英語版を含めて内容を充実させる。

(3) 期待される成果

1) 第25回看護人間工学部会 総会・研究会への発表、参加者を昨年より増やす。

2) 日本人間工学会第59回大会への発表、参加人数を増やす。

3) 看護人間工学部会、人間工学会への入会者を増やす。

4) 部会員による「人間工学」、「看護人間工学研究誌」の投稿を増やす。

4-5. 海事人間工学研究部会

{部会長：吉村 健志}

〈H25. 4. 1～5年以内〉

(1) テーマ

海事分野における人間工学研究の可能性に向けて

(2) 手段・方法

1) 企画セッションの提案

平成29年6月3日～4日、日本人間工学会第58回大会にて一般企画シンポジウムを下記の通り、企画、開催する。

テーマ：超小型センサが切り開く、将来の海事研究

目的：近年のセンサ技術の発展は目覚しく、超小型の各種(加速度、気圧等々)センサが開発されている。そして、2023年頃には毎年1兆個のセンサを活用する時代が訪れ、これらがネットワークに繋がることで社会構造や生活習慣が今とは大きく変わる。そこで、本シンポジウムでは、海事(人の活動に伴い発生する海または海

上に関する事柄) の分野に注目して、超小型センサを利用した最新の人間工学研究の事例について紹介し議論を進める。

オーガナイザー：才木常正（兵庫県立工業技術センター）、司会：吉村健志（海上技術安全研究所）

講演：

1. 「ウェアラブル生体センサの開発と海上労働への応用」 樋口行平（アフォードセンス）
2. 「口腔内総合センシング技術による潜水士の安全確保」 瀧澤由佳子（兵庫県立工業技術センター）
3. 「釣りを科学するセンサ技術」 荒木望（兵庫県立大学）

2) 研究会・見学会の開催

造船所を対象とした見学会を開催する。

3) 幹事会の開催

研究部会の円滑な運営を図るため、2回以上の幹事会を開催する。

4) 期待される効果

研究会及び見学会の開催を通じて、最新の海事関連研究に関する情報を発信することにより、若手研究者の関心を高める。また、分野を横断した研究者による連携を進め、海事分野の課題解決を図る。

4-6. 医療安全研究部会

{部会長:土屋 文人}

〈H25. 4. 1～5年以内〉

(1) 活動テーマ

我が国は一昨年秋に医療法の中で医療事故調査制度が位置づけられ、施行された。様々な議論はあるものの、医療安全を確保するための仕組みが一步前進したといえる。

本研究部会では、医療安全のなかで、特に医薬品及び医療機器に関連した人間工学的研究の普及・促進を図ってきたが、これらの業界においては人間工学的研究の重要性についての認識は確実に広がりを見せている。

一方、医療の分野において、医療事故調査に人間工学的視点が必要であることについては認識が広がり、医療事故等の調査においては、人間工学の専門家を含めるケースが増加してきている。このように医療安全における人間工学の関わりは第一段階から、日常の医療で使用される医薬品・医療機器が人間中心設計のコンセプトを基本として開発されることを定着させる必要がある。

そこで本部会においては医薬品を中心ではあるが人間工学における医療安全関連の学会報告、論文について過去2度印刷物を作成したが、部会活動が一段落したことから、これまでの医療安全研究部会活動の総まとめとして、この10年間における医療安全と人間工学の関わりについて編集・作成を行うこととする。

(2) 手段・方法

これまで本部会では医薬品を中心とした人間工学研究の学会報告、論文を2度にわたり、印刷物及びCDを作成してきた。今年度は医療安全における人間工学の関わりについて、この十数年の我が国の医療安全の考え方やその実施状況等を含め、総まとめを行い、CD作成、HP等での公開を行う。

医療関係の賛助会員を対象として、この分野における第二段階としての研究支援の方向性について理解を深めるためのセミナーを開催する。

(3) 期待される成果

医療安全における我が国の経緯及び人間工学の関わり記録が残されることにより、この分野における人間工学的研究の過去を知り、かつ今後の在り方を示すことができる。

賛助会員を対処うとしたセミナーにおいては、医療分野における人間工学の必要性について再認識を促すことを期待している。

4-7. ビッグデータ人間工学研究部会

{部会長：新家 敦}

〈H26. 2. 25～5年以内〉

(1) 平成 29 年度研究部会テーマ

次のユーザ行動を予測するためのビッグデータ

(2) 活動内容(手段・方法)

- 1) 定期的に幹事会を開催し、部会運営を円滑に行う。(電子メール会議、遠隔会議など多様な手段を活用する)
- 2) 部会内で定期的に勉強会を開催する。年 4 回の開催を目標とする。勉強会により、ビッグデータをベースに研究や業務を進める人間工学分野の研究者・実践者の人材拡大を図る。
- 3) 人間工学研究分野における「ビッグデータ」の定義をまとめる。一般に言われている「3V、4V」の定義が人間工学研究分野に馴染むものであるか、もしくは独自のビッグデータの定義が必要であるのかなどを検討する。
- 4) 講演会やシンポジウムを本学会外の組織と共催することで、学会外に対してビッグデータ解析における人間工学的視点の有用性を訴える。
- 5) ビッグデータに関与する人間工学研究者・実践者の立場が多様であるため、必要に応じた SIG (Special Interest Group) /ワーキンググループの設置を検討・運営する。
- 6) ワーキンググループを設置し、過去のユーザの行動結果から将来のユーザの行動を予測する方法を探る。

(3) 期待される成果

- 1) データ分析には人間工学の知見が必要との社会通念の形成を促進する。
- 2) データサイエンティストまたはデータ分析を行おうとする組織に対して人間工学の知識の必要性を訴求することで、本学会の会員数を増加させることができる。

4-8. 安全人間工学研究部会

{部会長：鳥居塚 崇}

〈H27. 4. 1～5 年以内〉

(1) 活動目的

安全人間工学研究部会は、安全に関わる人間工学の研究の情報交換と、様々な分野の安全研究者、実践者と問題を討議し、広くその成果を学会員ならびに社会に広めることを目的として活動を行う。

(2) 活動内容

- 1) 研究会を 3 回程度東京で開催する。
- 2) 首都圏以外の地域でも 2 回程度研究会を開催することを目標とする。
- 3) 必要に応じて、外国からの講師を招く予定である。
- 4) 部会員以外にも JES ウェブサイト等を通じて開催を告知する。
- 5) 幹事は鳥居塚 (日大)、中西 (慶應義塾大)、吉村 (海技研)、山出 (社会安全研究所) のほか、本年度から北村 (JR 総合研究所) が加わる。安全人間工学委員会の委員も部会運営に協力する。

4-9. PIE 研究部会

{部会長：三宅 晋司}

〈H27. 4. 1～5年以内〉

(1) 活動目的

初年度に引き続き、従来の生理心理計測手法とこれを人間工学分野に適用する際の方法論について議論し、新しい生理計測手法や装置に関する情報交換と役に立つ PIE に向けて共通認識をもち、解決すべき課題を明らかにする。さらに、企業と連携して人間工学分野における生理心理計測応用のグッドプラクティス事例の収集を行う。また、倫理的な側面についても議論を進め、必要に応じ啓発活動を行う。

(2)平成 29 年度の活動内容（手段・方法）

1. 6月のACED2017にて「Psychophysiology in Ergonomics」のシンポジウムを開催する。
2. 2018年のIEA2018にて部会主催のセッションPIE2018を企画・準備する。
3. 前年度に引き続き部会編による生理計測に関する資料集（書籍）の執筆者による講演会を実施する。今年度は免疫指標に関して中田光紀先生を予定している。
4. 10-12月頃にいずれかの支部大会でPIEセッションを企画する。
5. 部会 website へ生理計測に関する情報（機器、解析ソフト、使用レポート等）を掲示する。
6. その他、ワークショップや講習会など、公開企画も含めて検討する。
7. 並行して、部会運営ミーティングあるいはメーリングリスト利用の議論により、部会運営体制を強固なものにし、部会活動をさらに活性化させるとともに、次年度の活動計画を策定する。

(3)期待される成果

PIE 分野の現状認識、課題の抽出が行え、役に立つ PIE に向けての議論が活性化される。部会外への情報発信により PIE の裾野を広げる。

4-10. 衣服人間工学部会

{部会長:猪又 美栄子}

<H29. 4. 1~5 年以内>

(1)活動テーマ

平成 24 年度より「グリーンファッションに関する研究」をテーマに活動してきた。平成 29 年度以降についても引き続き、衣服の分野から着装のあり方、廃棄ゼロを目指した衣服の構造・デザイン、衣服材料の使い方、衣服のリサイクルなど、環境問題を視野に入れた研究活動、啓蒙活動を進めていく予定である。

(2)活動計画

- 研究例会の開催 2 回開催予定
- ・9 月 講演およびワークショップ
 - ・2 月 講演および工場見学

(3)期待される成果

講演、ワークショップ、工場見学を行うことにより、グリーンファッションに関する研究・教育についての意見交換、研究交流が期待される。

4-11. システム大会部会

{部会長:衛藤 憲人}

(1)本会の目的

ヒトをシステム論的立場から研究・議論することを目的に立ち上がった本部会も今年で四半世紀(25 年目)を迎えた。例年 3 月に開催される卒業研究生・修士研究生を中心とした研究発表会は、研究者として第一歩を踏み出す若手研究者にとって、日本人間工学会全国大会（毎年 6 月開催）・各地方支部大会前の所謂、萌芽的研究段階における重要な発表の場となっている。特に近年、日本全国から企業に在籍する研究者の発表も増え、医学から工学にわたる幅広い分野の専門家、学際領域の研究者、様々な大学の教員、学生、企業研究者が集い議論できる同発表会は特に学生たちに非常に好評である。

(2)活動の内容

第 25 回システム大会（平成 28 年度大会、東邦大学看護学部主催）を早稲田大学理工キャンパス（東京都新宿区）にて開催した。来年度も同様の大会開催を計画しているが、近年のシステム大会の全国的な認知度向上を利用し、学生、若手研究者にも人間工学への興味をもってもらい、日本人間工学会会員にすべく努力する予定である。そのために、年数回の幹事会（教員、研究者を中心に構成）と 3 月の第 26 回日本人間工学会システム大会を計画している。

一般社団法人日本人間工学会 2017 年度 委員会/担当等一覧

委員会/担当名	担当・委員長・副委員長等	活動のポイント等
常設委員会・担当（長期的及び継続的に実施する事業）		
総務担当	中西美和、大橋智樹	学会運営の執行管理、事務局機能の強化の検討
財務担当	三宅晋司、大内啓子	財務管理と学会財政に関する中長期計画等の提案
広報委員会	松田文子、山田クリス孝介	HP の運用推進、GPDB による実践事例公開、人間工学の社会発信
編集委員会	赤松幹之、榎原 毅	学会誌の編集と発行、電子投稿・査読システムの運用
国際協力委員会	小谷賢太郎、鳥居塚崇	国際人間工学連合・アジア人間工学デザイン会議等、国際協力活動の推進
ISO/TC159 国内対策委員会	横井孝志、佐藤 洋	ISO/TC159 に関わる規格の提案・作成・審議、JIS 規格案作成と普及
表彰委員会	青木和夫、申 紅仙	表彰制度の見直しと整備、各賞受賞候補者の選考、国際表彰の推進
安全人間工学委員会	首藤由紀、鳥居塚崇	安全に関わる学会活動の提言等、安全工学シンポジウム運営への参加
学術担当	横山清子、吉村健志	日本学術会議との連携、横幹連合への役員派遣、科研費の細目要望
企画担当	岡田 明、阿久津正大	公開講座の企画、大会における学会企画シンポジウムの企画等
人間工学専門家認定機構	福住伸一、横井元治	認定・再認定実施、講演会・セミナー等の開催、GPDB への協力
臨時委員会・担当（目標と期間を定め、成果を組織的に活用する事業）		
学会改革・戦略委員会	榎原 毅、吉武良治	学会活動の活性化をはかる組織運営のあり方について検討
倫理指針検討委員会	石橋基範、大須賀美恵子	人間工学研究のための倫理指針の改訂を検討する
子どもの ICT 活用委員会	斉藤 進、柴田隆史、久武雄三	学校等の ICT 機器の使用に関する人間工学課題の検討と情報の共有、ガイドライン作成準備
IEA 担当	藤田祐志、河合隆史	IEA ウェブサイトの運営にかかわる支援
選挙管理委員会	石橋基範	一般社団法人日本人間工学会代議員及び役員選挙の実施
役員候補者推薦委員会	堀江良典	次期役員候補者を検討・推薦
ACED2017・第 58 回大会担当	小谷賢太郎、鳥居塚崇	2017 年 6 月 1～4 日に大会開催
第 59 回大会担当	大橋智樹	2018 年 6 月 2～3 日に大会開催